２０２４年度

成蹊大学大学院
学生募集要項

文 学 研 究 科

目　　次

文学研究科

文学研究科の３ポリシー…… 1

博士前期課程 …… 11

博士後期課程 …… 27

教員紹介 …… 33

外国籍を有する受験生の方へ …… 46

外国の大学（大学院）を卒業・修了（見込）の場合の
「学位取得（見込）証明書・成績証明書」について …… 47

納付金 …… 48

奨学金制度 …… 49

教育補助員制度 …… 50

学会発表等に対する助成…… 50

私費外国人留学生授業料等減免制度…… 50

出願書類（所定用紙）

新型コロナウイルス感染症の影響で、2024 年度選考方法に変更
（例えば選考をオンラインで行うなど）の可能性があります。
変更が生じた場合は、入試情報サイト S-NET に随時掲載します。

個人情報の取扱いについて

成蹊大学大学院入学試験の出願書類に記載された個人情報に関しては、

①入学試験実施、②学籍の登録及び管理、③個人を特定できない形での統計的資料の作成

に使用するものであって、それ以外の目的には一切使用いたしません。なお、これらの業務の一部を、成蹊大学が指定した業者に委託します。業務委託にあたり、委託業者に個人情報を提供することがあります。
出願書類については「個人情報及び特定個人情報の保護に関する基本方針」に基づき適切に管理いたします。詳細は、成蹊学園ホームページの「個人情報保護に関する取り組み」を確認してください。

---文学研究科の３ポリシー（2020 年度以降入学者向け）

■文学研究科の理念・目的

成蹊学園創立者中村春二が目指した教育理念である「自発的精神の涵養と個性の発見伸長を目指す真の人間教育」を踏まえ、成蹊大学は次のミッションを掲げる。

１　知育偏重ではなく、人格、学問、心身にバランスのとれた人間教育を実践し、確かな教養と豊かな人間性を兼ね備え、社会の発展のために献身的に貢献できる人材を輩出する。

２　学術の理論及び応用を教授研究し、自由な知の創造をはかり、もってその深奥を究めて文化の進展に寄与する。

３　地域社会に根ざしつつ、世界に開かれた教育・研究機関として、その成果を社会に還元することを通じて、人類の共存に寄与する。

以上のミッションを達成するため、成蹊大学に適切な学部、学科、研究科、専攻を設置する。それぞれの固有の理念は、学部、学科、研究科、専攻ごとに定める。

■文学研究科の教育目標（人材育成方針）

成蹊大学大学院文学研究科は、成蹊大学の「理念・目的」を踏まえ、人文研究の分野において先進的な研究を担うことができる研究者を養成するとともに、時代や社会の変貌にグローバルな視点から対応できる高度な専門的職業人を養成することを人材育成方針として教育を行う。

■文学研究科の学位授与の方針（DiplomaPolicy；ＤＰ）

文学研究科は、博士前期課程において以下に掲げる要件をすべて満たし、所定の単位を修得した上で修士論文（研究コース）又は特定課題研究の成果（総合コース、英語教育コース）を提出して最終試験に合格した者に対し、「修士（文学)」（英米文学専攻、日本文学専攻）又は「修士（学術)」（社会文化論専攻）の学位を授与する。

また、博士後期課程において以下に掲げる要件をすべて満たし、所定の単位を修得した上で博士学位論文を提出して最終試験に合格した者に対し、「博士（文学)」（英米文学専攻、日本文学専攻）又は「博士（学術)」（社会文化論専攻）の学位を授与する。

【博士前期課程】

＜英米文学専攻研究コース＞

【専門分野の知識・理解】

（ＤＰ１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいて十分な専門知識を修得している。

（ＤＰ２）ＤＰ１に加えて、コア・カリキュラムの履修により、より幅広い視野から専門分野の研究が行える基礎的知識を修得している。

【研究能力及び発信力】

（ＤＰ３）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいての研究者として、自立可能な研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。

（ＤＰ４）修了時には英語で修士論文を執筆できる。

＜英米文学専攻総合コース＞

【専門分野の知識・理解】

（ＤＰ５）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の十分な基礎的知識を修得している。

（ＤＰ６）ＤＰ５に加えて、コア・カリキュラムの履修により、より幅広い視野から専門分野の研究

が行える基礎的知識を修得している。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ７）専門分野について英語で論文を書くことができる。

＜英米文学専攻英語教育コース＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ８）英語教育研究の最新の動向に触れ、理論と教育方法の十分な基礎的知識を修得している。
（ＤＰ９）コア・カリキュラムの履修により、英語教育の場にいかせるイギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学の基礎知識を修得している。
（ＤＰ１０）英語教員に必要な英語運用能力を修得している。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ１１）修了時には、英語で課題レポートを執筆できる。

＜日本文学専攻研究コース＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ１）日本語学又は日本文学の分野に関する高度な専門知識と、関連分野に関する深い知識を修得している。
【研究能力】
（ＤＰ２）日本語学又は日本文学の分野に関して、独自の研究課題を発見し、それを探究することのできる高度な研究能力を身に付けている。
【コミュニケーション能力】
（ＤＰ３）日本語学又は日本文学の分野の研究者として、自らの主張や見解を根拠に基づいて論理的に伝えるとともに、他者の意見や論理を深く理解することのできるコミュニケーション能力を有している。

＜日本文学専攻総合コース＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ４）日本語学及び日本文学の分野に関する専門知識と、関連分野に関する基本的な知識を幅広く修得している。
【研究能力】
（ＤＰ５）日本語学又は日本文学の分野に関して、自分の研究課題を設定し、それを調査・分析する能力を身に付けている。
【コミュニケーション能力】
（ＤＰ６）日本語学及び日本文学の分野に関する知識や自らの主張・見解を根拠に基づいて積極的に発信するとともに、他者の意見を的確に理解する能力を有している。

＜社会文化論専攻研究コース＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ１）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かで優れた研究者として活動を行っていくために必要とされる高度な専門知識を修得している。
（ＤＰ２）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野以外においても、分野を横断した幅広い視野を身につけている。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ３）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の

研究領域のうち選択する分野の研究者として、自らの研究課題を発見し、オリジナリティのある研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。
（ＤＰ４）専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識を身につけている。

＜社会文化論専攻総合コース＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ５）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、優れた研究活動を行っていくために必要とされる専門的知識を修得している。
（ＤＰ６）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野以外においても、幅広い視野を身につけている。
（ＤＰ７）専門的な知識をもとに、それを実践的活動へ導く能力を修得している。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ８）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、自らの研究課題を発見し、研究成果を適切に表現する能力を修得している。
（ＤＰ９）責任感と倫理性をもって研究活動する意識を身につけている。

なお、修士論文及び特定課題研究の成果について、全専攻共通の評価基準として次を定める。

[修士論文評価の基準]
１　研究テーマの学問的意義及び独創性
２　問題探究意識の高さ
３　先行研究への目配り及び取扱いの適切性
４　論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
５　資料の収集及び調査方法の適切性
６　表現及び表記法の適切さ

[特定課題研究の成果評価の基準]
１　特定課題に対する取り組み方の適切性
２　先行研究への目配り及び取扱いの適切性
３　論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
４　資料の収集及び調査方法の適切性
５　表現及び表記法の適切さ

【博士後期課程】
＜英米文学専攻＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ１）研究者として自立して活動するために必要とされる、各自の専門分野における高度な専門的知識や理論（文学批評理論、文化批評理論、言語学理論、第二言語修得理論等）を修得している。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ２）英米文学文化研究、英語学研究、あるいは英語教育の学術的発展に貢献できる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。

＜日本文学専攻＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ１）日本語学又は日本文学の分野に関して、研究者として自立して活動するために必要な高度な専門知識を修得している。
【研究能力】
（ＤＰ２）日本語学又は日本文学の分野に関して、独自の研究課題を発見し、独創的な研究を展開する能力を修得している。
【コミュニケーション能力】
（ＤＰ３）日本語学又は日本文学の分野の研究成果を学会や専門雑誌などで発表するとともに、他の研究者と議論したり、共同研究に参加したりする能力を身に付けている。

＜社会文化論専攻＞
【専門分野の知識・理解】
（ＤＰ１）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、研究者として自立して活動するために必要な高度な専門的知識を修得している。
【研究能力及び発信力】
（ＤＰ２）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、その分野の学術的発展に貢献することのできる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。
（ＤＰ３）専門家として未解決の諸問題に主体的に取り組みつつも、責任感と倫理性をもって活動する意識を身につけている。

なお、博士論文について、全専攻共通の評価の基準として、上記の修士論文評価の基準に加え、学界に対する学術的寄与の度合いを含める。

■文学研究科の教育課程編成・実施の方針（CurriculumPolicy；ＣＰ）

成蹊大学大学院文学研究科は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

（１）博士前期課程
＜英米文学専攻研究コース＞
（ＣＰ１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいて十分な専門知識を修得（ＤＰ１）できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
（ＣＰ２）専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる（ＤＰ２）ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度（コア・カリキュラム制度）を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
（ＣＰ３）学会発表や論文執筆の能力（ＤＰ３、ＤＰ４）を養成するために、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。
（ＣＰ４）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜英米文学専攻総合コース＞

（ＣＰ５）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の十分な基礎的知識を修得（ＤＰ５）できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。

（ＣＰ６）専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる（ＤＰ６）ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度（コア・カリキュラム制度）を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。

（ＣＰ７）論文執筆の能力（ＤＰ７、ＤＰ８）を養成するために、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。

（ＣＰ８）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜英米文学専攻英語教育コース＞

（ＣＰ９）英語教育研究の基礎的知識と最新の動向に触れ、理論と実践方法の十分な基礎知識（ＤＰ９）を身につけられる専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。

（ＣＰ１０）英語教育の場にいかせるイギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学の基礎知識（ＤＰ１０）を身につけられるよう、コア・カリキュラム制度を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。

（ＣＰ１１）英語で論文執筆ができる（ＤＰ１１、ＤＰ１２）ように、英語での論文執筆指導科目を提供する。

（ＣＰ１２）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜日本文学専攻研究コース＞

（ＣＰ１）日本語学又は日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる（ＤＰ１）ように、共通講義科目を設置する。

（ＣＰ２）日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究能力を身に付けることができる（ＤＰ１、ＤＰ２）ように、個別研究科目を設置する。

（ＣＰ３）修士論文の作成に向けて先行研究をふまえたうえで学術的な論文を執筆できる（ＤＰ２、ＤＰ３）ように、論文演習科目を設置する。

（ＣＰ４）日本語学又は日本文学の分野における十分な研究能力を獲得できる（ＤＰ２）ように、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。

（ＣＰ５）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜日本文学専攻総合コース＞

（ＣＰ６）日本語学及び日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる（ＤＰ４）ように、共通講義科目を設置する。

（ＣＰ７）日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究手法を修得できる（ＤＰ４、ＤＰ５）ように、個別研究科目を設置する。

（ＣＰ８）特定課題研究の成果の作成に向けて、たしかな根拠に基づいて論文が執筆できる（ＤＰ５、ＤＰ６）ように、課題研究科目を設置する。

（ＣＰ９）日本語学又は日本文学の分野における研究能力を養う（ＤＰ５）ために、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。

（ＣＰ１０）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際して

は、文学研究科の定める基準により評価する。

＜社会文化論専攻研究コース＞

（ＣＰ１）創造性豊かで優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力（ＤＰ１）を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。

（ＣＰ２）分野を横断した幅広い視野（ＤＰ２）を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接学問分野の授業を選択できる多様な授業科目を設置する。

（ＣＰ３）自らの研究課題を発見し、オリジナリティのある研究成果を適切に表現する論文作成能力（ＤＰ３）を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。

（ＣＰ４）専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識（ＤＰ４）を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。

（ＣＰ５）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜社会文化論専攻総合コース＞

（ＣＰ６）優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力（ＤＰ５）を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。

（ＣＰ７）幅広い視野（ＤＰ６）を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接学問分野の授業を選択できる多様な授業科目を設置する。

（ＣＰ８）専門的な知識をもとに、それを実践的活動へ導く能力（ＤＰ７）を修得できるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。

（ＣＰ９）自らの研究課題を発見し、研究成果を適切に表現する論文作成能力（ＤＰ８）を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。

（ＣＰ１０）責任感と倫理性をもって研究活動する意識（ＤＰ９）を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。

（ＣＰ１１）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

（２）博士後期課程

＜英米文学専攻＞

（ＣＰ１）研究者として自立して活動するために必要とされる、専門分野における高度な専門的知識や理論（文学批評理論、文化批評理論、言語学理論、第二言語修得理論等）を修得（ＤＰ１３）できるよう、各自の専攻分野に加え、隣接学問分野の授業を選択できるように、多様な授業科目を提供し、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導をする。

（ＣＰ２）英米文学文化研究、英語学研究、あるいは英語教育の学術的発展に貢献できる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得（ＤＰ１４）できるよう、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。

（ＣＰ３）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜日本文学専攻＞

（ＣＰ１）日本語学又は日本文学の分野に関する高度な専門知識を修得できる（ＤＰ１）ように、特殊講義科目を設置する。

（ＣＰ２）日本語学又は日本文学の分野の研究能力を高めることができる（ＤＰ２）ように、特殊研究科目を設置する。

（ＣＰ３）博士論文の作成に向けて学会や専門雑誌で研究成果を発表できる（ＤＰ２、ＤＰ３）ように

論文演習科目を設置する。
（ＣＰ４）日本語学又は日本文学の分野における卓越した又は独創的な研究を展開できる能力を養う（ＤＰ２）ために、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
（ＣＰ５）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

＜社会文化論専攻＞
（ＣＰ１）研究者として自立して活動するために必要な高度な専門的知識（ＤＰ１）を修得できるよう、多様な授業科目を設置する。
（ＣＰ２）学術的発展に貢献することのできる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力（ＤＰ２）を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
（ＣＰ３）高度な専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識（ＤＰ３）を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
（ＣＰ４）学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

■文学研究科の入学者受入れの方針（AdmissionPolicy；ＡＰ）

本研究科の「理念・目的」、「教育目標（人材育成方針）」、ＤＰ、ＣＰを踏まえ、入学者受入れの方針を以下のとおり定める。

（１）博士前期課程
（ＡＰ１）【求める学生像】
＜英米文学専攻研究コース＞
イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の４つの分野のうち、自らの専門に関する十分な基礎知識を持っている人。

＜英米文学専攻総合コース＞
イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の４つの分野のうち、自分の専門に関する十分な基礎知識を持っている人。

＜英米文学専攻英語教育コース＞
英語教育に関する十分な基礎知識を持っている人。

＜日本文学専攻研究コース＞
（１）日本語学及び日本文学の分野において大学卒業レベルの専門的学力を有する人。
（２）学術的な表現のできる高度な日本語力を有する人。
（３）専門分野において学問的探究を行うことに強い意欲を持つ人。
（４）研究成果を発信することに積極的姿勢を有する人。

＜日本文学専攻総合コース＞
（１）大学卒業までに修得しておくべき十分な基礎学力を有する人。

（２）学術的な表現のできる確かな日本語力を有する人。
（３）専門分野に関する知見を高めることに強い意欲を持つ人。
（４）専門分野及び関連諸分野に対する幅広い関心を有する人。

＜社会文化論専攻研究コース＞
歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの分野において、自ら課題を発見し学問的探究を行うことへの強い意欲と豊かな資質を持つ人。

＜社会文化論専攻総合コース＞
歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの分野において、自ら課題を発見し学問的探究を行うことへの意欲と資質を持つ人。

（ＡＰ２）【入学者の選考方針】（全専攻共通）
本研究科では、（ＡＰ１）【求める学生像】を考慮しつつ、以下の視点に基づいて入学者の選考を実施する。
（１）多様性の確保
社会人、外国人等の多様な学生の入学を促すため、入学者選抜方法を工夫する。
（２）公平性の確保
すべての入学者の選考において公平性を損なうことがないように、試験結果を客観的基準に基づいて判定することにより、入学者を決定する。
（３）基礎学力の確認
すべての入学者の選考において、各専攻に入学するにふさわしい基礎学力が十分に備わっていることを確認の上、入学者を決定する。

（ＡＰ３）【身に付けておくべき教科・科目等】
＜英米文学専攻研究コース＞
（１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育のうち専攻する予定の分野の科目及び隣接分野の科目の十分な知識。
（２）研究をするのに十分な英語運用能力と日本語運用能力。

＜英米文学専攻総合コース＞
（１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育のうち専攻する予定の分野の科目及び隣接分野の科目の十分な知識。
（２）研究をするのに十分な英語運用能力と日本語運用能力。

＜英米文学専攻英語教育コース＞
（１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育のうち専攻する予定の分野の科目及び隣接分野の科目の十分な知識。
（２）研究をするのに十分な英語運用能力と日本語運用能力。

＜日本文学専攻研究コース＞
日本語学・日本古典文学・日本近現代文学のうち専攻する予定の分野の科目及び隣接分野の科目。

＜日本文学専攻総合コース＞
日本語学・日本文学のうち専攻する予定の分野の科目及びそれに関連する分野の科目。

＜社会文化論専攻研究コース＞
（１）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの専門分野に関する十全な基礎知識。
（２）研究計画を立案・実行する能力。
（３）研究遂行上必要な外国語能力。

＜社会文化論専攻総合コース＞
（１）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの専門分野に関する基礎知識。
（２）研究計画を立案・実行する能力。

（２）博士後期課程
（ＡＰ１）【求める学生像】
＜英米文学専攻＞
イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の４つの分野のうち、自分の専門に関する高度な専門知識を持っている人。

＜日本文学専攻＞
（１）日本語学又は日本文学の分野において博士前期課程修了レベルの専門的学力を有する人
（２）専門分野に関する深い学問的な知識に基づき、独自の研究を着実に遂行し、専門分野の学問的発展に寄与する意欲と資質を有する人。
（３）研究成果を継続的に公表し、社会に貢献することに積極的姿勢を有する人＜社会文化論専攻＞歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの分野において、修士論文などで一定の成果を得つつ、自ら課題を発見し学問的探究を行うことへの強い意欲と豊かな資質を持つ人。

（ＡＰ２）【入学者の選考方針】（全専攻共通）
「入学者受入れの方針」を踏まえて、入学者の選抜方法に関する指針を以下のとおり定める。
（１）多様性の確保
社会人、外国人等の多様な学生の入学を促すため、入学者選抜方法を工夫する。
（２）公平性の確保
すべての入学者の選考において公平性を損なうことがないように、試験結果を客観的基準に基づいて判定することにより、入学者を決定する。
（３）基礎学力の確認

すべての入学者の選考において、各専攻に入学するにふさわしい基礎学力が十分に備わっていることを確認の上、入学者を決定する。

（ＡＰ３）【身に付けておくべき教科・科目等】
＜英米文学専攻＞
（１）イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育のうち専攻する予定の分野の科目及び隣接分野の科目の十分な知識。
（２）研究をするのに十分な英語運用能力と日本語運用能力。

＜日本文学専攻＞
日本語学・日本古典文学・日本近現代文学のうち専攻する予定の分野の科目及びそれと密接に関連する分野の科目。
＜社会文化論専攻＞
（１）歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等のいずれかの専門分野に関する十全な知識。
（２）博士論文執筆にむけて研究計画を立案・実行する能力。
（３）研究遂行上必要な外国語能力。

文 学 研 究 科

（博　士　前　期　課　程）

本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

本研究科の博士前期課程の各専攻にコースを置く。各専攻におけるコースの種類及びその目的は、次のとおりとする。

英米文学専攻

研究コース

イギリス文学、アメリカ文学、英語学または英語教育のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的知識の修得及び研究能力の涵養を目的とする。

総合コース

イギリス文学、アメリカ文学、英語学または英語教育のいずれかの分野において、広い専門的知識及び豊かな英語能力を兼ね備えた高度な職業人ならびに広い知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

英語教育コース

英語教育に関する高度な理論及び方法ならびに授業実践に結びつく専門的知識を有する優れた英語教員の養成を目的とする。

日本文学専攻

研究コース

日本語学または日本文学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。

総合コース

日本語学及び日本文学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

社会文化論専攻

研究コース

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。

総合コース

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域に関し、専門的知識を備え、それを実践的活動へ導く能力を有する高度な専門職業人及び広い知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

成蹊大学大学院文学研究科博士前期課程には以下の３専攻があり、修了者には次の学位が授与されます。

英米文学専攻	修士（文学）
日本文学専攻	修士（文学）
社会文化論専攻	修士（学術）

博士前期課程の上記３専攻には、次のようなコースが設けられています。

【英米文学専攻】

＜研究コース＞

博士前期課程修了後、さらに研究を深めるため博士後期課程に進学する可能性を考えている人を対象とするコースです。イギリス文学、アメリカ文学、英語学、英語教育の４つの分野があります。各分野とも、それぞれの専門についての基礎知識を修得し研究能力を養成することを目的としますが、どの分野を専攻するにあたってもコア・カリキュラムの履修によって、より幅広い視野から専門の研究を行えるよう指導します。修了時には英語で修士論文を執筆し、引き続き博士後期課程に進学する場合は、その研究テーマを発展させていくことが望まれています。

＜総合コース＞

学部で学んだことを深め総合的に発展させるとともに、英語で読み書きする力を強化し、専門分野について英語で文章を書くことができることをめざすコースです。コア・カリキュラムによってイギリス文学、アメリカ文学、英語学、英語教育の基礎的知識を修得します。その上で、文化研究、言語学的アプローチなどを取り入れて、分野を横断する研究方法を学びます。最終的には専攻分野を一つ選び、「特定課題研究の成果」を作成します。

＜英語教育コース＞

現職の英語教員及び英語教員をめざす人のためのコースです。英語力・英語伝達力の増強を目的とする一方、コア・カリキュラムによってイギリス文学、アメリカ文学、英語学の基礎知識を修得し、文化的・語学的バックグラウンドの上に立って教えられるような教員を育成します。また、英語教育研究の最新の動向に触れ、理論と方法を学び、実践的教育活動につなげていきます。英語教育研究を専門とするネイティブ教員による実践指導も行われます。修士論文でなく、「特定課題研究の成果」を提出します。

＊どのコースを履修するかは、出願時の希望によります。入学後のコース変更も可能です。

【日本文学専攻】

＜研究コース＞

専門的な研究者になることをめざし、博士前期課程修了後、さらに研究を深めるため博士後期課程に進学する可能性を考えている人を対象とするコースです。研究者としての基礎を築くため修士論文の提出が求められます。

＜総合コース＞

学部で学んだことをさらに発展させるとともに、専門分野についてより広く深く総合的に学びたい人のためのコースです。中学・高校の国語の教員や出版関係への就職などをめざす人、現職の教員で教科の専門的な力をよりレベルアップしたい人、また日本語・日本文学に強い関心を持つ社会人で研究的なものへの入門を志す人などを対象とします。修士論文提出の必要はありませんが、指導教授の指導による「特定課題研究の成果」の提出が求められます。

＊どのコースを履修するかは、出願時の希望によりますが、入学後のコース変更も可能です。

【社会文化論専攻】

本専攻は、世界の多様な地域を対象に、方法的には歴史学・文化人類学・国際関係研究から社会学・メディア研究まで幅広い研究領域を対象にしています。そこでは、それら専門領域の研究を深めると同時に、従来の専門領域にとらわれず、創発的な発想でインターディシプリナリーに研究を進めていくことが可能です。それにより、幅広い視野と素養を持ち、同時に専門領域でも深く思考し実践できる人材の育成をめざしています。そのために以下の 2 つのコースを用意しています。

＜研究コース＞

それぞれの専門分野で活躍できる研究者を養成することをめざします。各専門分野に要求されるレベルの修士論文を書くことを必須要件とし、博士後期課程に進学する可能性のあるコースです。

＜総合コース＞

地域や社会において現在実践的活動を行っている人が、それをさらにレベルアップした社会的活動に発展させていくために、必要な専門的知識や実践的トレーニングを積み重ねていく総合的なコースです。市民や企業人のほかにも、教員・学生・社会人で教員の専修免許取得をめざす人、学芸員で専門の研究を深めようとする人もこのコースを選択することができます。また自治体職員も、自らの職業の意義と可能性を把握するために、このコースで研鑽することが期待されます。やがて社会に出て実践的な活動を行うために、より実際に即した専門知識やトレーニングを望む学生も、このコースを選択することができます。修士論文提出の必要はありませんが、指導教授の指導による「特定課題研究の成果」の提出が求められます。

※どのコースを履修するかは、出願時の希望によりますが、入学後のコース変更も可能です。

【長期履修】

博士前期課程の通常の履修年限は２年ですが、職業を有している等の事情により履修年限が４年となる長期履修制度もあります。長期履修の申請は出願時のみ可能で、その後は原則として変更することができません。長期履修を選択した場合、従来の２年間分の納付金を、４年間に分割して納入します。この制度はすべての専攻、コースに共通して適用されます。

※外国人留学生（在留資格が「留学」の者）は、長期履修は選択できません。

1. 募 集 人 員

英米文学専攻	8 名
日本文学専攻	8 名
社会文化論専攻	8 名

2. 出 願 資 格（成蹊大学文学部在籍者は「文学研究科内部選抜入学者募集要項」を参照）

次の各号のいずれかに該当する者、又は 2024 年 3 月 31 日までに該当する見込みの者
外国籍の者は、10 も満たす必要があります（社会文化論専攻のみ）。

1. 修業年限４年以上の大学を卒業した者
2. 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
3. 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
5. 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
6. 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することも含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
7. 専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
8. 文部科学大臣が指定した者
9. 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達した者
10. 出願期間の開始日において、次の①又は②の要件を満たしている者
    ①日本語能力試験（JLPT）のＮ１レベルの認定を受けている者
    ②日本留学試験の日本語科目の合計点数が 250 点（記述を除く）以上である者
    ※日本留学試験を出願資格として出願する場合は、成績照会を行いますので、必ず出願締切日の前日までに本学アドミッションセンターに連絡してください。
    ※検定試験運営団体による試験実施状況により、変更の可能性があります。本学入試情報サイト S-NET を確認してください。

（注１）前記３．及び４．で出願する場合は、学士学位を取得している、又は取得見込みである必要があります。

（注２）外国籍の者は、P.46 を確認してください。

3. 出 願 手 続

(1) 期　日

第１期　2023 年 9 月 13 日（水）～9 月 22 日（金）日本文学専攻のみ

第２期　2024 年 1 月　9 日（火）～2 月　2 日（金）

(2) 提出先……成蹊大学アドミッションセンター

〒180-8633　東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

(3) 提出書類

出願者は、入学検定料（35,000 円）を銀行窓口で払い込んだ後、窓口で返却された入学検定料振込通知書の受付銀行領収印を確認の上、次の書類を一括して提出してください。

出願の際は、市販の封筒（角２サイズ）を準備し、所定の宛名シートを貼付して提出してください。郵送の場合、必ず、簡易書留郵便で送付してください（出願締切日必着）。

書類を窓口に持参する場合、学園休業日は窓口を閉室しているので、注意してください。

1．志願票（所定様式）

2．入学検定料振込通知書【大学提出用】（所定様式）

3．出身大学の成績証明書

4．出身大学の卒業（見込）証明書〈日本の大学を卒業または卒業見込みの者〉

5．出身大学の学士学位取得（見込）証明書〈外国の大学を卒業または卒業見込みの者〉

6．「出願資格」10 に該当する者は、次の①または②の証明書（社会文化論専攻のみ。①は原本のみ可。②はコピー可）

① 日本国際教育支援協会が発行する日本語能力試験Ｎ１（旧試験の受験者は１級）の「日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書」または合否結果通知書（「合格」と明記されているもの）

② 日本留学試験の日本語科目の合計点数が 250 点（記述を除く）以上の成績通知書

7．住民票（外国籍の者のみ提出（「国籍・地域」「在留資格」「在留期間の満了の日」を明示すること）、受験用の短期滞在査証の者はパスポートのコピー）

8．a　研究計画書（2000 字程度）

b　卒業論文がある場合は添付すること（写しでもよい）

9．住所シート（所定様式、自己の住所氏名を記入すること）

（注）外国の大学を卒業または卒業見込みの者は、P.47 を確認してください。

〈受験票について〉

受験票は、試験１週間前ごろまでに、成蹊大学アドミッションセンターから、出願時に提出された住所シート（所定様式、自己の住所氏名を記入したもの）を使用して、郵送で送付します。 時期を過ぎても届かない場合には、問い合わせてください。

(4)　入学資格審査

前記「２．出願資格」の９．に該当し、個別の入学資格審査を希望する者は、成蹊大学アドミッションセンターに連絡してください。申請書と調書（ともに所定様式）のほか必要な書類（最

終学歴の卒業証明書・成績証明書、研究論文、実務経験の履歴・業績、申請者の学力を証明できるもの等）をそろえて、出願手続締切日の２ヶ月前までに成蹊大学アドミッションセンターに送付してください（外国の学校を卒業または卒業見込みの者は、書類提出にあたっては前項の（注）に準じること）。

4. 試 験 期 日

第１期　2023 年　10 月 4 日（水）日本文学専攻のみ
第２期　2024 年　2 月 24 日（土）英米文学専攻・日本文学専攻・社会文化論専攻

5. 選 考 方 法

専攻によって異なるので、注意してください。

【英米文学専攻】

試験開始時刻　10：00
（集合時間は受験票送付の際に通知します。交通機関の不通、遅延、荒天の場合を除き、連絡なく集合時間に 15 分以上遅れると、受験できなくなるので注意してください。）

３コースとも、課題についてのプレゼンテーションと質疑応答及び口述試験を行います。
（所要時間１人 30 分）

課題は、出願締切日に、本学入試情報サイト S-NET で発表します。指定された課題を読み、内容及びそれに対する論評を 15 分程度でプレゼンテーションしてください。自分の研究テーマと関連づけられれば、それについても論じてください。プレゼンテーションのためにＡ４判１枚の日本語レジュメ及び 200 語程度の英文のまとめを、それぞれ５部用意して試験に臨んでください。なお、プレゼンテーションではパソコン等電子機器は使用できません。

口述試験の内容は、短い英文をその場で読み、それについての質疑応答が行われる場合もあります。専門分野の基礎的知識、研究計画などを問うものになります。なお、日本語能力を問うこともあります。

【日本文学専攻】

試験開始時刻　9：30
（集合時間は受験票送付の際に通知します。交通機関の不通、遅延、荒天の場合を除き、連絡なく集合時間に 15 分以上遅れると受験できなくなるので注意してください。）

２コースとも、選考は「（１）筆記試験」または「（２）プレゼンテーション試験」で行います。出願時にいずれかを選んでください。

それぞれ、課題は、出願締切日に、本学入試情報サイト S-NET で発表します。

（1）筆記試験

提示された課題の中から志望する分野のものを一つ選択し、入試当日までの期間を利用して筆記試験の準備をしてください。筆記試験は、資料持ち込み不可、30 分間で行われます。自分の研究テーマと関連づけられれば、それについても論じてください。

日本文学、日本語学についての基礎学力のほか、研究計画を問う口述試験も行います。当日の試験スケジュールは受験票で告知します。

（2）プレゼンテーション試験

提示された課題の中から志望する分野のものを一つ選択し、入試当日までの期間を利用してプレゼンテーションの準備をしてください。自分の研究テーマと関連づけられれば、それについても論じてください。プレゼンテーションのために、Ａ４判１枚分のレジュメを５部用意して試験に臨んでください。10 分間程度のプレゼンテーションの後、その内容について質疑応答が行われます。

※ PC 等、機材の持ち込みは不可とします。

日本文学、日本語学についての基礎学力のほか、研究計画を問う口述試験も行います。当日の試験スケジュールは受験票で告知します。

【社会文化論専攻】

試験開始時刻　9：30

（集合時間は受験票送付の際に通知します。交通機関の不通、遅延、荒天の場合を除き、連絡なく集合時間に 15 分以上遅れると受験できなくなるので注意してください。）

「研究コース」「総合コース」とも選考はプレゼンテーションと口述試験で行います。プレゼンテーションの課題は、出願締切日に、本学入試情報サイト S-NET で発表します。

出願者は複数提示された課題の中から一つを選択し、入試当日までの期間を利用してプレゼンテーションの準備をしてください。自分の研究テーマと関連づけられれば、それについても論じてください。プレゼンテーションのためにＡ４判１枚のレジュメを５部用意して試験に臨んでください（プレゼンテーションの際には、パソコン等の電子機器は使用できませんのでご注意ください）。10 分程度のプレゼンテーションの後、その内容について質疑応答が行われます。なお、日本語能力を問うこともあります。

引き続いて、専門分野についての基礎学力（「研究コース」の場合は外国語能力を含むことがある）及び研究計画を問う口述試験を行います。

所要時間はプレゼンテーションと口述試験を含めて「研究コース」「総合コース」ともに約 40 分です。

6. 合格者発表

第１期　2023 年 10 月 18 日（水）10：00

第２期　2024 年 3 月 4 日（月）10：00

発表方法　合格者発表は「合格証」の郵送により行います。合格者には「合格証」を合格者発表日に速達郵便で郵送します。また、合格者発表の補助的な手段として、本学入試情報サイト S-NET で合否を確認することができます。

7. 入 学 手 続

(1) 入学手続期間　　第１期　2023 年 10 月 18 日（水）～ 11 月 2 日（木）
　　第２期　2024 年 3 月 4 日（月）～ 3 月 15 日（金）

(2) 入学手続納付金の納入方法等の詳細は、合格者に別途お知らせします。

○ 注 意 事 項

出願手続後は、書類に記載した事項の変更は認めません。また、一度受理した書類は返却できませんので、注意してください。

○ 授 業 科 目

2024 年度の授業計画は 2023 年度と同じになるとは限りませんので、詳細はアドミッションセンターに問い合わせてください。

(1) 英米文学専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
研究科目			
イギリス文学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学研究ＢⅠ	前期	2	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
イギリス文学研究ＢⅡ	後期	2	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
イギリス文学研究ＣⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学研究ＣⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学研究ＢⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学研究ＢⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学研究ＣⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学研究ＣⅡ	後期	2	休　講
英語学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
英語学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
英語学研究ＢⅠ	前期	2	休　講
英語学研究ＢⅡ	後期	2	休　講
英語学研究ＣⅠ	前期	2	休　講
英語学研究ＣⅡ	後期	2	休　講
英語教育研究ＡⅠ	前期	2	休　講
英語教育研究ＡⅡ	後期	2	ライマン　アンドリュー
英語教育研究ＢⅠ	前期	2	休　講
英語教育研究ＢⅡ	後期	2	休　講
演習科目			
イギリス文学演習ＡⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学演習ＡⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学演習ＣⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学演習ＣⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学演習ＡⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学演習ＡⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学演習ＣⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学演習ＣⅡ	後期	2	休　講
英語学演習ＡⅠ	前期	2	休　講
英語学演習ＡⅡ	後期	2	休　講
英語学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
英語学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
英語学演習ＣⅠ	前期	2	休　講
英語学演習ＣⅡ	後期	2	休　講
英語教育演習ＡⅠ	前期	2	休　講
英語教育演習ＡⅡ	後期	2	休　講
英語教育演習ＢⅠ	前期	2	休　講
英語教育演習ＢⅡ	後期	2	休　講

共通科目			
Ｔｈｅｓｉｓ　ＷｒｉｔｉｎｇⅠ	前期	2	休　講
Ｔｈｅｓｉｓ　ＷｒｉｔｉｎｇⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学コア・カリキュラムＡ	前期	2	塚田　雄一
イギリス文学コア・カリキュラムＢ	後期	2	休　講
アメリカ文学コア・カリキュラムＡ	前期	2	休　講
アメリカ文学コア・カリキュラムＢ	後期	2	休　講
批評理論コア・カリキュラムＡ	前期	2	休　講
批評理論コア・カリキュラムＢ	後期	2	日比野　啓
英語学コア・カリキュラムＡ	前期	2	休　講
英語学コア・カリキュラムＢ	後期	2	休　講
英語教育コア・カリキュラムＡ	前期	2	休　講
英語教育コア・カリキュラムＢ	後期	2	休　講
論文演習科目			
論文演習Ⅰ	通年	4	小林　英里
論文演習Ⅱ	通年	4	小林　英里
論文演習Ⅰ	通年	4	権田　建二
論文演習Ⅱ	通年	4	権田　建二
論文演習Ⅰ	通年	4	庄司　宏子
論文演習Ⅱ	通年	4	庄司　宏子
論文演習Ⅰ	通年	4	田辺　春美
論文演習Ⅱ	通年	4	田辺　春美
論文演習Ⅰ	通年	4	日比野　啓
論文演習Ⅱ	通年	4	日比野　啓
論文演習Ⅰ	通年	4	平山　真奈美
論文演習Ⅱ	通年	4	平山　真奈美
論文演習Ⅰ	通年	4	森住　　史
論文演習Ⅱ	通年	4	森住　　史
論文演習Ⅰ	通年	4	塚田　雄一
論文演習Ⅱ	通年	4	塚田　雄一
論文演習Ⅰ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
論文演習Ⅱ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
チュートリアル科目			
チュートリアルⅠ	通年	4	小林　英里
チュートリアルⅡ	通年	4	小林　英里
チュートリアルⅠ	通年	4	権田　建二
チュートリアルⅡ	通年	4	権田　建二
チュートリアルⅠ	通年	4	庄司　宏子
チュートリアルⅡ	通年	4	庄司　宏子
チュートリアルⅠ	通年	4	田辺　春美
チュートリアルⅡ	通年	4	田辺　春美
チュートリアルⅠ	通年	4	日比野　啓
チュートリアルⅡ	通年	4	日比野　啓
チュートリアルⅠ	通年	4	平山　真奈美
チュートリアルⅡ	通年	4	平山　真奈美
チュートリアルⅠ	通年	4	森住　　史
チュートリアルⅡ	通年	4	森住　　史
チュートリアルⅠ	通年	4	塚田　雄一
チュートリアルⅡ	通年	4	塚田　雄一
チュートリアルⅠ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
チュートリアルⅡ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ

注（1）共通科目のうち、Thesis Writing Ⅰ及び Thesis WritingⅡは、全てのコースの必修科目とする。
（2）共通科目の英語教育コア・カリキュラムＡ及び英語教育コア・カリキュラムＢは、英語教育コースの必修科目とする。
（3）共通科目のうち、学際分野特殊研究は、８単位まで博士前期課程の修了に必要な単位に算入することができる。

(4) 論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
(5) チュートリアル科目は、総合コース及び英語教育コースの必修科目とする。

(2) 日本文学専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
共通講義科目			
古典文学共通講義Ａ	前期	2	平野　多恵
古典文学共通講義Ｂ	後期	2	平野　多恵
近代文学共通講義Ａ	前期	2	林　　廣親
近代文学共通講義Ｂ	後期	2	林　　廣親
日本語学共通講義Ａ	前期	2	井島　正博
日本語学共通講義Ｂ	後期	2	井島　正博
文献資料共通講義Ａ	前期	2	休　講
文献資料共通講義Ｂ	後期	2	休　講
個別研究科目			
古代文学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
古代文学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
古代文学研究ＢⅠ	前期	2	休　講
古代文学研究ＢⅡ	後期	2	休　講
中世文学研究Ⅰ	前期	2	休　講
中世文学研究Ⅱ	後期	2	休　講
近世文学研究Ⅰ	前期	2	休　講
近世文学研究Ⅱ	後期	2	休　講
近代文学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
近代文学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
近代文学研究ＢⅠ	前期	2	浜田　雄介
近代文学研究ＢⅡ	後期	2	浜田　雄介
日本語学研究ＡⅠ	前期	2	休　講
日本語学研究ＡⅡ	後期	2	休　講
日本語学研究ＢⅠ	前期	2	休　講
日本語学研究ＢⅡ	後期	2	休　講
古代文学演習ＡⅠ	前期	2	休　講
古代文学演習ＡⅡ	後期	2	休　講
古代文学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
古代文学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
中世文学演習Ⅰ	前期	2	休　講
中世文学演習Ⅱ	後期	2	休　講
近世文学演習Ⅰ	前期	2	休　講
近世文学演習Ⅱ	後期	2	休　講
近代文学演習ＡⅠ	前期	2	大橋　崇行
近代文学演習ＡⅡ	後期	2	大橋　崇行
近代文学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
近代文学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
日本語学演習ＡⅠ	前期	2	久保田　篤
日本語学演習ＡⅡ	後期	2	久保田　篤
日本語学演習ＢⅠ	前期	2	休　講
日本語学演習ＢⅡ	後期	2	休　講
論文演習科目			
論文演習Ⅰ	通年	4	木谷　眞理子
論文演習Ⅱ	通年	4	木谷　眞理子
論文演習Ⅰ	通年	4	久保田　篤
論文演習Ⅱ	通年	4	久保田　篤
論文演習Ⅰ	通年	4	浜田　雄介
論文演習Ⅱ	通年	4	浜田　雄介

論文演習Ⅰ	通年	4	平野　多恵
論文演習Ⅱ	通年	4	平野　多恵
論文演習Ⅰ	通年	4	森　　雄一
論文演習Ⅱ	通年	4	森　　雄一
論文演習Ⅰ	通年	4	吉田　幹生
論文演習Ⅱ	通年	4	吉田　幹生
論文演習Ⅰ	通年	4	大橋　崇行
論文演習Ⅱ	通年	4	大橋　崇行
論文演習Ⅰ	通年	4	牧　　藍子
論文演習Ⅱ	通年	4	牧　　藍子
論文演習Ⅰ	通年	4	岡部　嘉幸
論文演習Ⅱ	通年	4	岡部　嘉幸
課題研究科目			
課題研究Ⅰ	通年	4	木谷　眞理子
課題研究Ⅱ	通年	4	木谷　眞理子
課題研究Ⅰ	通年	4	久保田　篤
課題研究Ⅱ	通年	4	久保田　篤
課題研究Ⅰ	通年	4	浜田　雄介
課題研究Ⅱ	通年	4	浜田　雄介
課題研究Ⅰ	通年	4	平野　多恵
課題研究Ⅱ	通年	4	平野　多恵
課題研究Ⅰ	通年	4	森　　雄一
課題研究Ⅱ	通年	4	森　　雄一
課題研究Ⅰ	通年	4	吉田　幹生
課題研究Ⅱ	通年	4	吉田　幹生
課題研究Ⅰ	通年	4	大橋　崇行
課題研究Ⅱ	通年	4	大橋　崇行
課題研究Ⅰ	通年	4	牧　　藍子
課題研究Ⅱ	通年	4	牧　　藍子
課題研究Ⅰ	通年	4	岡部　嘉幸
課題研究Ⅱ	通年	4	岡部　嘉幸

注（1）共通講義科目のうち、学際分野特殊研究は、８単位まで博士前期課程の修了に必要な単位に算入することができる。
（2）論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
（3）課題研、究科目は、総合コースの必修科目とする。

（3）社会文化論専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
一般研究科目			
欧米文化研究Ⅰ	前期	2	寺本　敬子
欧米文化研究Ⅱ	後期	2	寺本　敬子
国際社会文化研究Ⅰ	前期	2	川村　陶子
国際社会文化研究Ⅱ	後期	2	川村　陶子
文化人類学研究Ⅰ	前期	2	嶺崎　寛子
文化人類学研究Ⅱ	後期	2	嶺崎　寛子
歴史研究ＡⅠ	前期	2	有富　純也
歴史研究ＡⅡ	後期	2	有富　純也
歴史研究ＢⅠ	前期	2	中野　由美子
歴史研究ＢⅡ	後期	2	中野　由美子
女性史・ジェンダー研究Ⅰ	前期	2	竹内　敬子
女性史・ジェンダー研究Ⅱ	後期	2	竹内　敬子
社会学研究ＡⅠ	前期	2	内藤　　準
社会学研究ＡⅡ	後期	2	内藤　　準

社会学研究ＢⅠ	前期	2	稲葉　佳奈子
社会学研究ＢⅡ	後期	2	稲葉　佳奈子
社会学研究ＣⅠ	前期	2	金　　善美
社会学研究ＣⅡ	後期	2	金　　善美
メディア研究ＡⅠ	前期	2	見城　武秀
メディア研究ＡⅡ	後期	2	見城　武秀
メディア研究ＢⅠ	前期	2	西　　兼志
メディア研究ＢⅡ	後期	2	西　　兼志
地域福祉・NPO 研究Ⅰ	前期	2	休　講
地域福祉・NPO 研究Ⅱ	後期	2	休　講
特殊研究科目			
欧米文化演習Ⅰ	前期	2	松浦　義弘
欧米文化演習Ⅱ	後期	2	松浦　義弘
国際社会文化演習Ⅰ	前期	2	墓田　　桂
国際社会文化演習Ⅱ	後期	2	墓田　　桂
文化人類学演習Ⅰ	前期	2	休　講
文化人類学演習Ⅱ	後期	2	休　講
歴史演習ＡⅠ	前期	2	佐々木　紳
歴史演習ＡⅡ	後期	2	佐々木　紳
歴史演習ＢⅠ	前期	2	樋口　真魚
歴史演習ＢⅡ	後期	2	樋口　真魚
女性史・ジェンダー演習Ⅰ	前期	2	休　講
女性史・ジェンダー演習Ⅱ	後期	2	休　講
社会学演習ＡⅠ	前期	2	渡邉　大輔
社会学演習ＡⅡ	後期	2	渡邉　大輔
社会学演習ＢⅠ	前期	2	小林　　盾
社会学演習ＢⅡ	後期	2	小林　　盾
社会学演習ＣⅠ	前期	2	休　講
社会学演習ＣⅡ	後期	2	休　講
メディア演習ＡⅠ	前期	2	休　講
メディア演習ＡⅡ	後期	2	休　講
メディア演習ＢⅠ	前期	2	今田　絵里香
メディア演習ＢⅡ	後期	2	今田　絵里香
地域福祉・NPO 演習Ⅰ	前期	2	澁谷　智子
地域福祉・NPO 演習Ⅱ	後期	2	澁谷　智子
論文演習科目			
論文演習Ⅰ	通年	4	有富　純也
論文演習Ⅱ	通年	4	有富　純也
論文演習Ⅰ	通年	4	内藤　　準
論文演習Ⅱ	通年	4	内藤　　準
論文演習Ⅰ	通年	4	今田　絵里香
論文演習Ⅱ	通年	4	今田　絵里香
論文演習Ⅰ	通年	4	川村　陶子
論文演習Ⅱ	通年	4	川村　陶子
論文演習Ⅰ	通年	4	見城　武秀
論文演習Ⅱ	通年	4	見城　武秀
論文演習Ⅰ	通年	4	小林　　盾
論文演習Ⅱ	通年	4	小林　　盾
論文演習Ⅰ	通年	4	佐々木　紳
論文演習Ⅱ	通年	4	佐々木　紳
論文演習Ⅰ	通年	4	澁谷　智子
論文演習Ⅱ	通年	4	澁谷　智子
論文演習Ⅰ	通年	4	竹内　敬子
論文演習Ⅱ	通年	4	竹内　敬子
論文演習Ⅰ	通年	4	中野　由美子
論文演習Ⅱ	通年	4	中野　由美子

論文演習Ⅰ	通年	4	西　　兼志
論文演習Ⅱ	通年	4	西　　兼志
論文演習Ⅰ	通年	4	墓田　　桂
論文演習Ⅱ	通年	4	墓田　　桂
論文演習Ⅰ	通年	4	嶺崎　寛子
論文演習Ⅱ	通年	4	嶺崎　寛子
論文演習Ⅰ	通年	4	渡邉　大輔
論文演習Ⅱ	通年	4	渡邉　大輔
課題研究科目			
課題研究Ⅰ	通年	4	有富　純也
課題研究Ⅱ	通年	4	有富　純也
課題研究Ⅰ	通年	4	内藤　　準
課題研究Ⅱ	通年	4	内藤　　準
課題研究Ⅰ	通年	4	今田　絵里香
課題研究Ⅱ	通年	4	今田　絵里香
課題研究Ⅰ	通年	4	川村　陶子
課題研究Ⅱ	通年	4	川村　陶子
課題研究Ⅰ	通年	4	見城　武秀
課題研究Ⅱ	通年	4	見城　武秀
課題研究Ⅰ	通年	4	小林　　盾
課題研究Ⅱ	通年	4	小林　　盾
課題研究Ⅰ	通年	4	佐々木　紳
課題研究Ⅱ	通年	4	佐々木　紳
課題研究Ⅰ	通年	4	澁谷　智子
課題研究Ⅱ	通年	4	澁谷　智子
課題研究Ⅰ	通年	4	竹内　敬子
課題研究Ⅱ	通年	4	竹内　敬子
課題研究Ⅰ	通年	4	中野　由美子
課題研究Ⅱ	通年	4	中野　由美子
課題研究Ⅰ	通年	4	西　　兼志
課題研究Ⅱ	通年	4	西　　兼志
課題研究Ⅰ	通年	4	墓田　　桂
課題研究Ⅱ	通年	4	墓田　　桂
課題研究Ⅰ	通年	4	嶺崎　寛子
課題研究Ⅱ	通年	4	嶺崎　寛子
課題研究Ⅰ	通年	4	渡邉　大輔
課題研究Ⅱ	通年	4	渡邉　大輔

注（1）一般研究科目のうち、学際分野特殊研究は、８単位まで博士前期課程の修了に必要な単位に算入することができる。
（2）論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
（3）課題研究科目は、総合コースの必修科目とする。

（4）学際分野特殊研究（全専攻共通）

授業科目名	開講期	単位数	2023年度担当者	備考
学際分野特殊研究（原子核のエネルギー）	後期	2	近　　匡 岩瀬　広 栗原　良将 西山　潤	理工学研究科主体
学際分野特殊研究（データの科学）	後期	2	竹之内　高志	理工学研究科主体
学際分野特殊研究（知的財産と経営）	前期	2	休　講	理工学研究科主体
学際分野特殊研究（力学系の理論と応用）	未定	2	休　講	経済経営研究科主体
学際分野特殊研究（科学の考え方Ⅰ）	前期	2	瀬戸　一夫	法学政治学研究科主体
学際分野特殊研究（科学の考え方Ⅱ）	後期	2	瀬戸　一夫	法学政治学研究科主体

※ 英米文学専攻（共通科目）
　日本文学専攻（共通講義科目）
　社会文化論専攻（一般研究科目）

○ 博士前期課程の修了に必要な修得単位数（2023年４月１日現在）

（1）英米文学専攻

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>研究コース</th><th>総合コース</th><th colspan="2">英語教育コース</th></tr>
<tr><td rowspan="4">研究科目</td><td>イギリス文学研究科目</td><td rowspan="9">１２</td><td rowspan="9">１２</td><td>――</td><td rowspan="9">１２</td></tr>
<tr><td>アメリカ文学研究科目</td><td>――</td></tr>
<tr><td>英語学研究科目</td><td>――</td></tr>
<tr><td>英語教育研究科目</td><td>２以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">演習科目</td><td>イギリス文学演習科目</td><td>――</td></tr>
<tr><td>アメリカ文学演習科目</td><td>――</td></tr>
<tr><td>英語学演習科目</td><td>――</td></tr>
<tr><td>英語教育演習科目</td><td>４以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">共通科目</td><td>１０</td><td>１４</td><td colspan="2">１４</td></tr>
<tr><td colspan="2">論文演習科目</td><td>８</td><td>――</td><td colspan="2">――</td></tr>
<tr><td colspan="2">チュートリアル科目</td><td>――</td><td>８</td><td colspan="2">８</td></tr>
<tr><td colspan="2">合計</td><td>３０</td><td>３４</td><td colspan="2">３４</td></tr>
</table>

注　（1）英語教育コースの研究科目及び演習科目12単位は、英語教育研究科目及び英語教育演習科目の授業科目より修得するものとする。
（2）各コースの共通科目の修得単位数には、必修科目 Thesis Writing Ⅰ及び Thesis WritingⅡの計４単位を含む。
（3）英語教育コースの共通科目の修得単位数（14単位）には、上記（2）の他、当該コースの必修科目の英語教育コア・カリキュラムＡ及び英語教育コア・カリキュラムＢの計４単位を含む。
（4）成蹊大学大学院文学研究科規則第３条第２項の規定により修得した授業科目の単位は、研究科目の単位に算入する。

(2) 日本文学専攻

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>研究コース</th><th colspan="2">総合コース</th></tr>
<tr><td colspan="2">共　通　講　義　科　目</td><td>１０</td><td>１４以上</td><td rowspan="2">２６</td></tr>
<tr><td colspan="2">個　別　研　究　科　目</td><td>１２</td><td>８以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">論　文　演　習　科　目</td><td>８</td><td colspan="2">――</td></tr>
<tr><td colspan="2">課　題　研　究　科　目</td><td>――</td><td colspan="2">８</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　　計</td><td>３０</td><td colspan="2">３４</td></tr>
</table>

注　成蹊大学大学院文学研究科規則第３条第２項の規定により修得した授業科目の単位は、個別研究科目の単位に算入する。

(3) 社会文化論専攻

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th colspan="2">研究コース</th><th colspan="2">総合コース</th></tr>
<tr><td colspan="2">一　般　研　究　科　目</td><td>８以上</td><td rowspan="2">２２</td><td>８以上</td><td rowspan="2">２６</td></tr>
<tr><td colspan="2">特　殊　研　究　科　目</td><td>８以上</td><td>８以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">論　文　演　習　科　目</td><td colspan="2">８</td><td colspan="2">――</td></tr>
<tr><td colspan="2">課　題　研　究　科　目</td><td colspan="2">――</td><td colspan="2">８</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　　計</td><td colspan="2">３０</td><td colspan="2">３４</td></tr>
</table>

注　成蹊大学大学院文学研究科規則第３条第２項の規定により修得した授業科目の単位は、一般研究科目の単位に算入する。

○ 教育職員免許状の取得

(1)　中学校・高等学校教諭一種免許状をすでに取得している者が、本学大学院の博士前期課程を修了し所定の単位を取得した場合には、中学校・高等学校教諭専修免許状が授与されます（免許教科が同一の場合)。

(2)　新たに中学校・高等学校教諭専修免許状を取得しようとする場合は、学部に開講されている必要な授業科目を履修し、「介護等の体験」を行い、博士前期課程を修了することによって取得できます。

(3)　免許状教科の種類

<table>
<tr><th>研　究　科</th><th>専　　攻</th><th colspan="2">免許教科（中学校・高等学校教諭専修免許状）</th></tr>
<tr><td rowspan="4">文 学 研 究 科</td><td>英 米 文 学</td><td colspan="2">英　　語</td></tr>
<tr><td>日 本 文 学</td><td colspan="2">国　　語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">社 会 文 化 論</td><td>中　学</td><td>社　　会</td></tr>
<tr><td>高　校</td><td>地 理 歴 史 又は
公 民 のいずれか
１教科</td></tr>
</table>

文 学 研 究 科

（博　士　後　期　課　程）

本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

博士後期課程　それぞれの専攻に関連する分野に応じ、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成することを目的とする。

成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程には、以下の３専攻があり、修了者には、次の学位が授与されます。

英 米 文 学 専 攻	博士（文学）
日 本 文 学 専 攻	博士（文学）
社会文化論専攻	博士（学術）

1. 募 集 人 員

英米文学専攻	4 名
日本文学専攻	4 名
社会文化論専攻	4 名

2. 出 願 資 格（成蹊大学文学研究科在籍者は「文学研究科内部選抜入学者募集要項」を参照）

次の各号のいずれかに該当する者、又は 2024 年 3 月 31 日までに該当する見込みの者

1. 修士の学位又は専門職学位を有する者
2. 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
3. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
4. 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
5. 文部科学大臣が指定した者
6. 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24 歳に達した者

（注）外国籍者は、P.46 を確認してください。

3. 出 願 手 続

(1) 期　日……2024 年 1 月 9 日（火）～ 2 月 2 日（金）

(2) 提出先……成蹊大学アドミッションセンター

〒180-8633　東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

(3) 提出書類

出願者は、入学検定料（35,000 円）を銀行窓口で払い込んだ後、窓口で返却された入学検定料振込通知書の受付銀行領収印を確認の上、次の書類を一括して提出してください。

出願の際は、市販の封筒（角２サイズ）を準備し、所定の宛名シートを貼付して提出してください。郵送の場合、必ず、簡易書留郵便で送付してください（出願締切日必着）。

書類を窓口に持参する場合、学園休業日は窓口を閉室しているので、注意してください。

1．志願票（所定様式）
2．入学検定料振込通知書【大学提出用】（所定様式）
3．出身大学及び大学院の成績証明書
4．出身大学院の修了（見込）証明書〈日本の大学院を修了または修了見込みの者〉
5．出身大学院の学位取得（見込）証明書〈外国の大学院を修了または修了見込みの者〉
6．住民票（外国籍の者のみ提出（「国籍・地域」「在留資格」「在留期間の満了の日」を明示すること）
7．修士論文、またはそれに代わるもの（写しでもよい）
8．研究計画書（2000 字程度）
9．住所シート（所定様式、自己の住所氏名を記入すること）

（注）　外国の大学院を修了または修了見込みの者は、P.47 を確認してください。

〈受験票について〉

受験票は、試験１週間前ごろまでに、成蹊大学アドミッションセンターから、出願時に提出された住所シート（所定様式、自己の住所氏名を記入したもの）を使用して、郵送で送付します。 時期を過ぎても届かない場合には、問い合わせてください。

(4)　入学資格審査

前記「２．出願資格」の６．に該当し、個別の入学資格審査を希望する者は、成蹊大学アドミッションセンターに連絡してください。申請書と調書（ともに所定様式）のほか必要な書類（最終学歴の卒業証明書・成績証明書、研究論文、実務経験の履歴・業績、申請者の学力を証明できるもの等）をそろえて、出願手続締切日の２ヶ月前までに成蹊大学アドミッションセンターに送付してください（外国の学校を修了または修了見込みの者は、書類提出にあたっては前項の（注）に準じること）。

4. 試 験 期 日

2024 年 2 月 24 日（土）

5. 選 考 方 法

専攻によって異なるので、注意してください。試験場は、当日指示します。

英米文学専攻

Ⅰ　外　国　語　　9：30～10：15（45 分）

1. ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語のうち１ヵ国語
（辞書の使用可。電子辞書等は不可。）
（注）ただし、上記の外国語について、大学で４単位以上修得済みの者は受験を免除する。その場合は、大学の成績証明書を添付すること。
2. 外国人留学生の場合は日本語（辞書の使用可。電子辞書等は不可。）

Ⅱ　専 門 科 目　　10：30～12：30（120 分）
英米文学専攻の専門科目

Ⅲ　口 述 試 験　　13：30～
1. 修士論文またはそれに代わるもの、及び研究計画について
2. その他

日本文学専攻

口述試験　　13：00～
1. 修士論文またはそれに代わるもの、及び研究計画について
2. 専門分野について
3. その他

社会文化論専攻

口述試験　　13：00～
1. 修士論文またはそれに代わるもの、及び研究計画について
2. その他

6. 合格者発表

2024 年 3 月 4 日（月）　10：00

発表方法　合格者発表は「合格証」の郵送により行います。合格者には「合格証」を合格者発表日に速達郵便で郵送します。また、合格者発表の補助的な手段として、本学入試情報サイト S-NET で合否を確認することができます。

7. 入 学 手 続

(1) 入学手続期間　　2024 年 3 月 4 日（月）～3 月 15 日（金）

(2) 入学手続納付金の納入方法等の詳細は、合格者宛に送付する入学手続要項に記載します。

○ 注 意 事 項

出願手続後は、書類に記載した事項の変更は認めません。また、一度受理した書類は返却できませんので、注意してください。

○ 授 業 科 目

2024 年度の授業計画は 2023 年度と同じになるとは限りませんので、詳細はアドミッションセンターに問い合わせてください。

(1) 英米文学専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
イギリス文学特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
イギリス文学特殊研究ＣⅠ	前期	2	休　講
イギリス文学特殊研究ＣⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＣⅠ	前期	2	休　講
アメリカ文学特殊研究ＣⅡ	後期	2	休　講
英語学特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
英語学特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
英語学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
英語学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
英語教育特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
英語教育特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
英語教育特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
英語教育特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
論文演習Ⅲ	通年	4	庄司　宏子
論文演習Ⅳ	通年	4	庄司　宏子
論文演習Ⅴ	通年	4	庄司　宏子
論文演習Ⅲ	通年	4	田辺　春美
論文演習Ⅳ	通年	4	田辺　春美
論文演習Ⅴ	通年	4	田辺　春美
論文演習Ⅲ	通年	4	日比野　啓
論文演習Ⅳ	通年	4	日比野　啓
論文演習Ⅴ	通年	4	日比野　啓
論文演習Ⅲ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
論文演習Ⅳ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ
論文演習Ⅴ	通年	4	ラルフ　バーナビー　ジェイムズ

（注）論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習Ⅴは、必修とする。

(2) 日本文学専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
古典文学特殊講義Ａ	前期	2	平野　多恵
古典文学特殊講義Ｂ	後期	2	平野　多恵
近代文学特殊講義Ａ	前期	2	林　　廣親
近代文学特殊講義Ｂ	後期	2	林　　廣親
日本語学特殊講義Ａ	前期	2	井島　正博
日本語学特殊講義Ｂ	後期	2	井島　正博

文献資料特殊講義Ａ	前期	2	休　講
文献資料特殊講義Ｂ	後期	2	休　講
古代文学特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
古代文学特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
古代文学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
古代文学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
中世文学特殊研究Ⅰ	前期	2	休　講
中世文学特殊研究Ⅱ	後期	2	休　講
近世文学特殊研究Ⅰ	前期	2	休　講
近世文学特殊研究Ⅱ	後期	2	休　講
近代文学特殊研究ＡⅠ	前期	2	大橋　崇行
近代文学特殊研究ＡⅡ	後期	2	大橋　崇行
近代文学特殊研究ＢⅠ	前期	2	浜田　雄介
近代文学特殊研究ＢⅡ	後期	2	浜田　雄介
日本語学特殊研究ＡⅠ	前期	2	久保田　篤
日本語学特殊研究ＡⅡ	後期	2	久保田　篤
日本語学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
日本語学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
論文演習Ⅲ	通年	4	久保田　篤
論文演習Ⅳ	通年	4	久保田　篤
論文演習Ⅴ	通年	4	久保田　篤
論文演習Ⅲ	通年	4	浜田　雄介
論文演習Ⅳ	通年	4	浜田　雄介
論文演習Ⅴ	通年	4	浜田　雄介
論文演習Ⅲ	通年	4	平野　多恵
論文演習Ⅳ	通年	4	平野　多恵
論文演習Ⅴ	通年	4	平野　多恵
論文演習Ⅲ	通年	4	森　　雄一
論文演習Ⅳ	通年	4	森　　雄一
論文演習Ⅴ	通年	4	森　　雄一
論文演習Ⅲ	通年	4	吉田　幹生
論文演習Ⅳ	通年	4	吉田　幹生
論文演習Ⅴ	通年	4	吉田　幹生
論文演習Ⅲ	通年	4	岡部　嘉幸
論文演習Ⅳ	通年	4	岡部　嘉幸
論文演習Ⅴ	通年	4	岡部　嘉幸

（注）論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習Ⅴは、必修とする。

(3) 社会文化論専攻

授業科目名	開講期	単位数	2023 年度担当者
欧米文化特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
欧米文化特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
欧米文化特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
欧米文化特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講
国際社会文化特殊研究ＡⅠ	前期	2	川村　陶子
国際社会文化特殊研究ＡⅡ	後期	2	川村　陶子
国際社会文化特殊研究ＢⅠ	前期	2	墓田　　桂
国際社会文化特殊研究ＢⅡ	後期	2	墓田　　桂
文化人類学特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
文化人類学特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
文化人類学特殊研究ＢⅠ	前期	2	休　講
文化人類学特殊研究ＢⅡ	後期	2	休　講

歴史特殊研究ＡⅠ	前期	2	有富　純也
歴史特殊研究ＡⅡ	後期	2	有富　純也
歴史特殊研究ＢⅠ	前期	2	中野　由美子
歴史特殊研究ＢⅡ	後期	2	中野　由美子
歴史特殊研究ＣⅠ	前期	2	竹内　敬子
歴史特殊研究ＣⅡ	後期	2	竹内　敬子
歴史特殊研究ＤⅠ	前期	2	休　講
歴史特殊研究ＤⅡ	後期	2	休　講
社会学特殊研究ＡⅠ	前期	2	小林　盾
社会学特殊研究ＡⅡ	後期	2	小林　盾
社会学特殊研究ＢⅠ	前期	2	渡邉　大輔
社会学特殊研究ＢⅡ	後期	2	渡邉　大輔
社会学特殊研究ＣⅠ	前期	2	澁谷　智子
社会学特殊研究ＣⅡ	後期	2	澁谷　智子
社会学特殊研究ＤⅠ	前期	2	休　講
社会学特殊研究ＤⅡ	後期	2	休　講
社会学特殊研究ＥⅠ	前期	2	休　講
社会学特殊研究ＥⅡ	後期	2	休　講
社会学特殊研究ＦⅠ	前期	2	休　講
社会学特殊研究ＦⅡ	後期	2	休　講
メディア特殊研究ＡⅠ	前期	2	休　講
メディア特殊研究ＡⅡ	後期	2	休　講
メディア特殊研究ＢⅠ	前期	2	今田　絵里香
メディア特殊研究ＢⅡ	後期	2	今田　絵里香
メディア特殊研究ＣⅠ	前期	2	西　兼志
メディア特殊研究ＣⅡ	後期	2	西　兼志
メディア特殊研究ＤⅠ	前期	2	休　講
メディア特殊研究ＤⅡ	後期	2	休　講
論文演習Ⅲ	通年	4	今田　絵里香
論文演習Ⅳ	通年	4	今田　絵里香
論文演習Ⅴ	通年	4	今田　絵里香
論文演習Ⅲ	通年	4	小林　盾
論文演習Ⅳ	通年	4	小林　盾
論文演習Ⅴ	通年	4	小林　盾
論文演習Ⅲ	通年	4	竹内　敬子
論文演習Ⅳ	通年	4	竹内　敬子
論文演習Ⅴ	通年	4	竹内　敬子
論文演習Ⅲ	通年	4	中野　由美子
論文演習Ⅳ	通年	4	中野　由美子
論文演習Ⅴ	通年	4	中野　由美子
論文演習Ⅲ	通年	4	澁谷　智子
論文演習Ⅳ	通年	4	澁谷　智子
論文演習Ⅴ	通年	4	澁谷　智子
論文演習Ⅲ	通年	4	墓田　桂
論文演習Ⅳ	通年	4	墓田　桂
論文演習Ⅴ	通年	4	墓田　桂

（注）論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習Ⅴは、必修とする。

担 当 専 任 教 員 の 紹 介

2023 年 4 月 1 日現在

【英米文学専攻】

教　授　　遠　藤　不比人

1989 年　慶應義塾大学大学院文学研究科　英米文学専攻修士課程修了（文学修士）

1992 年　慶應義塾大学大学院文学研究科　英米文学専攻博士課程単位取得退学

2012 年　博士（学術）（一橋大学）

【専　攻　領　域】　イギリス文学／文化、文化理論

【主な著書・論文】

The Bloomsbury Handbook to Literature and Psychoanalysis (Bloomsbury Academic, 2023)（共著）、 *The Pleasure in/of the Text: About the Joys and Perversities of Reading* (Peter Lang, 2021)（共編著）、*Knots: Post-Lacanian Psychoanalysis, Literture and Film* (Routledge, 2019)（共著）、ジョージ・マカーリ『心の革命――精神分析の創造』（みすず書房、2020 年、単訳）、『情動とモダニティ――英米文学／精神分析／批評理論』（彩流社、2017 年、単著）、『日本表象の地政学――海洋・原爆・冷戦・ポップカルチャー』（彩流社．2014 年、編著）、『死の欲動とモダニズム――イギリス戦間期の文学』（慶應義塾大学出版会．2012 年、単著）、『転回するモダン――イギリス戦間期の文化と文学』（研究社. 2008 年、共編著）、『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950 年』（慶應義塾大学出版会. 2007 年、共編著）、『しみじみ読むイギリス・アイルランド文学（現代文学短編作品集）』（松柏社．2007 年、共訳）、『食餌の技法――身体医文化論 (4)』（慶應義塾大学出版会．2005 年、共著）、『知の教科書――批評理論』（講談社選書メチエ、2003 年、共著）、“Singular Universality: D.H.Lawrence and marxism” *D.H.Lawrence Studies* 20.1 (2012), “The Death Drive of Revolution / Counter-Revolution” *(a):the Journal of Culture and the Unconscious* 8.2 (2011-12) “Radical Violence Inside Out:Woolf, Klein, and Interwar Politics” *Twentieth-Century Literature* 52.2 (Summer 2006), “Kojin Karatani & The Return of the Thirties: Psychoanalysis in/of Japan” *The Semiotic Review of Books* 13.1 (Spring 2003)、「ラディカルな分離とコミュニティーレイモンド・ウィリアムズが賭けたもの」『英語青年』（2006 年 3 月号）、「露呈する〈政治〉と東アジア――ラカン派国際会議＠台湾」『情況』（2008 年 8 月号）、「とくに最初の第二楽章が… カズオ・イシグロの〈幼年期／日本〉をめぐって」『水声通信』(2008 年 9／10 月号)、「共同体とエロス、あるいは死の欲動の美学化――ウィリアムズ、エムプソン、フロイトの交錯点」『英語青年』（2010 年 1 月号）、ジョージ・マカーリ『心の革命――精神分析の創造』（みすず書房、2020 年）など。

教　授　　小　野　尚　美

1992 年　Indiana University（Bloomington），School of Education（Language Education, Ph.D.）（学術博士）

【専　攻　領　域】　英語教育、第二言語習得論

【主な著書・論文】

『英語教材を活かす――理論から実践へ――』（朝日出版社、2018 年、共著）、『小学校英語から中学校英語への架け橋――文学教育を取り入れた指導法モデルと教材モデルの開発研究』（朝日出版社、2017 年、共著）、『日本で英語を学ぶ大学生が読みに躓くとき』（成蹊大学研究助成（B 種）研究報告書、2016 年、共著）『教室英語ハンドブック』（研究社、2016 年、共著）、『「英語の読み書き」を見直す　Reading Recovery Program 研究から日本の早期英語教育への提言』（金星堂、2014 年、共著）、「〝Roaming around the known〟カナダにおける Reading Recovery Program® 教員研修から学ぶ〈2012 年カナダ（オンタリオ州トロント RR プログラム®）研修報告〉」（成蹊大学文学部紀要、第 48 号、pp. 177-190、2013 年）、「オーストラリア・ニュージーランドにおけるリテラシー教育と Reading Recovery（2011 年オーストラリア・ニュージーランド研修報告）」（成蹊英語英文学研究、第 16 号、pp. 53-70）、「Reading Recovery を活かした校種間連携―― Literacy 教育の視点から――」【短期特別

連載】『英語教育』 2011 年 3 月号（共著）、「Reading Recovery を活かした校種間連携―― RR の指導手順――」【短期特別連載】『英語教育』2011 年 4 月号（共著）、「Reading Recovery を活かした校種間連携――Reading Recovery をどのように活用するか――」【短期特別連載】『英語教育』2011 年 5 月号（共著）、〝The Reading Recovery Program: Educational Implications for Early English Education in Japan〟（成蹊英語英文学研究、第 14 号、pp. 37-47、2010 年）、『中学校及び高等学校の英語教育に連携する小学校英語の指導内容・方法の開発研究』平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（c））研究成果報告書（2009 年、共著）、『言語科学の百科事典』（丸善株式会社、2006 年、共著）、『英語の「授業力」を高めるために――授業分析からの提言』（三省堂、2005 年、共著）、『学力差による読解方略の違いを取り入れた高校リーディング教材モデルの開発と指導法の改善研究』平成 14 年度科学研究費補助金（基盤研究（c））研究成果報告書（2005 年、共著）、『応用言語学事典』（研究社、2003 年、共著）、『認知過程の分析に基づき言語処理能力を高めるためのリーディング教材モデルの開発研究』平成 12～13 年度科学研究費補助金（基盤研究（c））研究成果報告書（2002 年、共著）、『リーディング事典』（研究社、2000 年、共著）、Reading as Inquiry: A New Horizon for ESL Learners（リーベル出版、1998 年、単著）

教　授　　小　林　英　里

2005 年　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科　比較文化学専攻修了　博士（人文科学）

【専　攻　領　域】　英語圏文学・文化、批評理論

【主な著書・論文】

『意味をすくいあげて』（風間書房、2022 年、共著）、『英語英米文学研究の現在』（風間書房、2019 年、共著）、『国民国家と文学』（作品社、2019 年、共著）、『路と異界の英語圏文学』（大阪教育図書、2018 年、共著）、『二十一世紀の英語文学』（金星堂、2017 年、共著）、『英文学と他者』（金星堂、2014 年、共著）、『Women and Mimicry ジーン・リース小説研究』（ふくろう出版 2011 年、単著）、『現代イギリス文学と場所の移動』（金星堂 2010 年、共著）、『階級社会の変貌』（金星堂 2006 年、共著）、『かくも多彩な女たちの軌跡』（南雲堂 2004 年、共著）、「『1945 年 8 月に寄せたソネッツ』――英国詩人トニ・ハリソンのヒロシマ／ナガサキを主題とした作品について――」（『言語文化研究所報』第 34 号、2019 年）、「国ではなく、個人を！――アガサ・クリスティー作品にみる第二次世界大戦の表象分析――」（『成蹊英語英文学研究』第 21 号、2017 年）、「第一次世界大戦イギリス詩にみる多様な女性詩人たち」（『女性とジェンダーの歴史』第 2 号、2014 年）、“Daughters of the Brontës: An Analysis of Jean Rhys’s *Wide Sargasso Sea* and Maryse Conde’s *Windward Heights*”（『中部英文学』第 31 号、2011 年）、“Retrieving Fragments of An Effaced History : An Analysis of Maryse Conde’*s I, Tituba, Black Witch of Salem* (1986)”（『中京大学国際英語学部紀要』第 13 号、2011 年）

教　授　　権　田　建　二

1997 年　東京都立大学大学院人文科学研究科　英文学専攻修士課程修了（文学修士）

2004 年　博士（文学）（東京都立大学）

【専　攻　領　域】　アメリカ文学・文化、アメリカ研究

【主な著書・論文】

「『ジャズが感じられる瞬間』――ラルフ・エリソンの合衆国憲法とジャズ」『アメリカン・マインドの音声――文学・外傷・身体』（小鳥遊書房．2019 年、共著）「人種、あるいはレイシズムの子供――ウィリアム・ウェルズ・ブラウン『クローテル、あるいは大統領の娘』における人種・レイシズム・奴隷制」『Facets of English――英語英米文学研究の現在』（風間書房、2019 年）、『アメリカン・レイバー 合衆国における労働の文化表象』（彩流社．2017 年、共著）、「憲法の開放・奴隷の解放――フレデリック・ダグラスの合衆国憲法」（『アメリカ研究』第 49 号 2015 年）、『アメリカン・ヴァイオレンス』（彩流社． 2013 年、共著）、「『劣等性のしるし』を取り除くこと――アメリカの公立学校における人種統合の施行について」（『成蹊英語英文学研究』第 16 号 2012 年）、「不正の記憶」『アジア太平洋研究』（2009 年）、『アメリカン・テロル』（彩流社．2009 年、共著）

教　授　　庄　司　宏　子

1987 年　お茶の水女子大学大学院修士課程人文科学研究科　英文学専攻修了（文学修士）

1990 年　お茶の水女子大学大学院博士課程人間文化研究科　比較文化学専攻単位取得退学

2016 年　博士（学術）（お茶の水女子大学）

【専　攻　領　域】　アメリカ文学・文化

【主な著書・論文】

「Confederate Flag に関する一考察――“heritage”か“hate”を超えた思考にむけて」（『成蹊英語英文学研究』第 27 号、2023 年）、「ナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤーの『フライデー・ブラック』にみる現代アメリカの人種主義と暴力」（『成蹊大学文学部紀要』第 57 号、2022 年）、『国民国家と文学』（作品社、2019 年、編著）、『Facets of English ――英語英米文学研究の現在――』（風間書房、 2019 年、共著）、『憑依する英語圏テクスト――亡霊・血・まぼろし』（音羽書房鶴見書店、2018 年、共著）、『アメリカスの文学的想像力――カリブからアメリカへ』（彩流社、2015 年、単著）、『絵のなかの物語――文学者が絵を読むとは』（法政大学出版局、2013 年、編著）、『グローバル化の中のポストコロニアリズム――環太平洋諸国の英語文学と日本語文学の可能性』（風間書房、2013 年、編著）、『アメリカン・テロル』（彩流社、2009 年、共著）など。

教　授　　田　辺　春　美

1983 年　東京大学大学院人文科学研究科　英語英文学専攻修士課程修了（文学修士）

1985 年　東京大学大学院人文科学研究科　英語英文学専攻博士課程退学

【専　攻　領　域】　英語学（英語史）

【主な著書・論文】

『近代英語における文法的・構文的変化』（開拓社、2023 年、共著）、*Linguistic Variation in the Ancrene Wisse, Katherine Group and Wooing Group*（Peter Lang, 2018 年、共編著）、Sawles Warde *and the Wooing Group Parallel Texts with Notes and Wordlists*（Peter Lang, 2015 年、共編）、“Complementation Pattern of *Give Up* and Its Synonymous Verbs in the Nineteenth and Twentieth Centuries”（*Studies in Modern English: The Thirtieth Anniversary Publication of the Modern English Association,* 2014 年、英宝社）、“The Comment Clause in the Corpus of Early English Correspondence Sampler: Development and Gender Difference”（『近代英語研究』第 28 号、2012 年）, *The Katherine Group*: *A Three-Manuscript Parallel Text*（Peter Lang, 2011 年、共編）, *Language Change and Variation from Old English to Late Modern English: Festschrift for Prof. Minoji Akimoto*（Peter Lang, 2010 年、共編著）、『Comment Clause の史的研究―その機能と発達』（英潮社フェニックス、2010 年、共著）、*The Ancrene Wisse: A Four–Manuscript Parallel Text ,Preface and Parts 1–4*（Peter Lang, 共編）、*The Ancrene Wisse: A Four–Manuscript Parallel Text, Parts* 5–8（Peter Lang, 2003 年、2005 年、共編）、*Collocational and Idiomatic Aspects of Composite Predicates in the History of English*（John Benjamins, 1999 年、共著）等

教　授　　日比野　　啓

1994 年　東京大学大学院人文科学研究科　英語英文学専攻修士課程修了（文学修士）

2003 年　ニューヨーク市立大学大学院　演劇学科単位取得修了（M.Phil）

【専　攻　領　域】　演劇学、アメリカ文学

【主な著書・論文】

『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社、2020 年、単著）、『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年、項目執筆）、『戦後ミュージカルの展開』（森話社、2017 年、編著）、『アメリカン・レイバー――合衆国における労働の文化表象』（彩流社、2017 年、共編著）、『文化現象としての恋愛とイデオロギー』（風間書房、2017 年、共著）、『演劇のジャポニスム』（森話社、2017 年、共著）、『日本戯曲大事典』（白水社、2016 年、項目執筆）、*Rising from the Flames: The Rebirth of Theater during the Occupation of Japan, 1945-1952*（Lexington Books, 2009 年、共著）等。「（小声で言ってみる）アメリカの新しい音楽劇について」『文学』第 15 巻第 2 号（岩波書店、2014 年）、“Oscillating Between Fakery and Authenticity: Hirata Oriza’s Android Theatre,” *Comparative Theatre Review* 11:1 (2012) 等。

教　授　　平　山　真奈美

2000 年　東京外国語大学大学院地域文化研究科　ヨーロッパ第一専攻　博士前期課程修了　修士（言語学）

2001 年　University of Toronto, Department of Linguistics, School of Graduate Studies (Master of Arts)

2009 年　University of Toronto, Department of Linguistics, School of Graduate Studies (Doctor of Philosophy)

【専　攻　領　域】　言語学（音声学、音韻論）

【主な著書・論文】

『大人の英語発音講座＜新装復刊＞』（研究社、2023 年、共著、pp. 141-159）、『日本語の大疑問』（幻冬舎、国立国語研究所（編）、2021 年、共著、pp. 107-111）、『最新英語学・言語学用語辞典』（開拓社、2015 年、分担）、朝倉日英対照言語学シリーズ 2『音声学』（朝倉出版、2012 年、共著）、“On the L1 acquisition of recursive no in Japanese” *Canadian Journal of Linguistics/Revue canadienne de linguistique*（https://doi.org/10.1017/cnj.2023.4, 2023, 共著）、“Lexical category and downstep in Japanese” *Languages 7*（25, https://doi.org/10.3390/languages7010025, 2022, 共著）、“Can prosody encode recursive embedding? Children’s realizations of complex NPs in Japanese” *Journal of Child Language 48 (3)*（pp. 429‑453, doi:10.1017/S0305000920000367, 2021（オンライン版 2020），共著）、“Onset *Cy* and High Vowel Devoicing in Japanese” *Journal of Japanese Linguistics 34 (1)*（pp. 103-126,2018, 共著）、“Not all XPs affect prosody in Japanese” *NELS 46: Proceedings of the Forty-Sixth Annual Meeting of the North East Linguistic Society: Volume 2.*（pp. 95-104, 2016, 共著）、“Vowel Devoicing in Japanese and Postlexical Alterability of Syllable Structure”*Current Issues in Japanese Phonology: Segmental Variation in Japanese*（pp. 1-34, 2013, 開拓社）、“Asymmetries in Voiced Stop Gemination”*Asymmetries in Phonology: An East-Asian Perspective*（pp. 77-92, 2008, くろしお出版）

教　授　　森　住　　史

2001 年　国際基督教大学大学院教育学研究科　教育方法論英語教育法博士後期課程修了　博士（教育学）

【専　攻　領　域】　社会言語学、通訳論

【主な著書・論文】

『理工・技術系／政経・社会系　英語で学術プレゼン』（日興企画、2008 年共著）『英語教育にスパイスを！教員免許更新講習に向けて』（音羽書房鶴見書店、2009 年共著）、『12 の鉄則で始める 英文 E メール初級講座』（日本英語検定協会、2010 年）、NHK ラジオテキスト『入門ビジネス英語』2011 年 10 月号-2012 年 3 月号（NHK 出版、2011-2012 年）、『音と映像』（風間書房、2012 年共著）『英文メールのＡ to Ｚ』（NHK 出版、2012 年）‘Analyzing Andiovisual Translation : On New Approaches to Translation Studies.’（*Educational Studies,* Vol.55、2013 年）、「通訳者とコミュニケーション」（『成蹊大学　文学部紀要』第 49 号 2014 年）、‘EMI in Japan: Current Status and Its Implication.’（*Educational Studies,*Vol.57, 2015 年）、‘Turning the Clock Back to the Meiji Era? Japan’s English Education Policy.’（*Educational Studies,* Vol.58, 2016 年）、「英語教育政策と日本人アイデンティティ育成のディスコース」（『成蹊大学文学部紀要　第 51 号』、2016 年））、‘ A Case Study of a Bilingual Classroom and Its Implications for Language Management.’（『成蹊大学文学部紀要 第 53 号』、2018 年）「社会人に『売れる』英語と英語学習をめぐるディスコース」（『英語英米文学研究の現在』、2019 年、共著）

教　授　　ラルフ　ジェイムズ　バーナビー

2009 年 University of Queensland, School of Humanities (Rhetoric, Aesthetics and Musicology, Ph.D.) Dissertation title: Music, the Arts and the Dual Aesthetic in Seventeenth- and Early Eighteenth-Century English Thought”

【 専　攻　領　域】17th- and 18th-Century British Culture, Aesthetics and Philosophy, Cultural Studies, Critical Theory, Rhetoric, Literature

【主な著書・論文】

“Fleckerania: An Annotated Bibliography of Selected Materials by and Pertaining to James Elroy Flecker” (Seikei Review of English Studies (24) 1-22 Mar 2020), トマス・シャドウェルの戯曲『ランカシャーの魔女たち』(in:『 Facets of English:英語英文学研究の現在』2019（成蹊大学人文叢書 16）, 171-202 Mar 2019), London and Literature (with Angela Davenport and Yui Nakatsuma), Cambridge Scholars Publishing, Newcastle Upon Tyne, Jan 2017, “Four Men in a Boat: Dryden,D’Avenant, Shadwell, Locke and The Tempest” (Poetica (84) 1-24 Dec 2015), “A Castle Built on Sand: Allusion and The Brief Wondrous Life of Oscar Wao” (Seikei Review of English Studies (19) 27-38 Jul 2015), “The Consolations of Vulgarity:Consumption of the Pills to Purge Melancholy” (Tokyo Kasei University Studies in English Language and Literature (20) 14-26 Jul 2014), “Shakespeare’s lutes” (in: Prismatic Shakespeare from the Renaissance to the Twenty-First Century, Kinseido, Tokyo, 44-59 Apr 2013), “The golden road to nowhere: Flecker’s Hassan and the romantic sublime” (Essays and Studies in British and American Literature (59) 45-54 Mar 2013), “New Medievalism” (Hikaku Bunka (57) 17-20 2011), “Speaking through art” (in: Language games: Innovative activities for teaching English, TESOL, New York, 115-124 Aug 2009), “Rhetoric as a constructional metaphor in language education: A cross-cultural perspective” (co-authored, Proceedings from the 2008 Institute of Modern Languages and Communication Conference (IMCICON Digital) Sep 2008), “Eye of the beholden: Reflections on the role of the critic” (Media/Culture (8.5) Jun 2005), “Comparative aesthetic thought in early eighteenth-century England” (in: Aesthetics and Experience in Music Performance, CSP, Cambridge 39-47 Mar 2005).

准教授　　塚　田　雄　一

2011 年　東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻　修士課程修了　修士（学術）

2015 年　東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻　博士課程単位取得退学

2015 年　ロンドン大学キングズ・カレッジ 英語・英文学科　博士課程修了 PhD（English Language and Literature）

【専攻領域】　イギリス文学・文化、初期近代イギリス演劇、シェイクスピア

【主な著書・論文】

［単著］*Shakespeare and the Politics of Nostalgia: Negotiating the Memory of Elizabeth I* (London; New York: Bloomsbury Arden Shakespeare, 2019) ［共著］『シェイクスピアと演劇文化』(研究社、2012) ［査読論文（単著）］ “Representing Philip II of Spain in Jacobean England: Thomas Heywood’s *If You Know Not Me, You Know Nobody, Part I*” （『英文学研究 支部統合号（関東英文学研究）』 、第 12 巻、2020 年）、“*Antony and Cleopatra* and the Politics of Representing Elizabeth I in Jacobean England” (*Studies in English Literature, English Number*、第 59 巻、 2018 年)、「エリザベス表象研究の可能性を探る――初期近代イギリス演劇と批評理論の接点」(*Shakespeare Journal* 、 第 4 巻、2018 年)、“‘It makes him, and it mars him’: Heroic Masculinity in *Macbeth*” （ 『英文学研究 支部統合号（関西英文学研究）』、第 10 巻、2018 年)、“The Caesarean-Born Political Child of King James VI and I: A New Interpretation of *Macbeth*'s Two Prophecies” (『英文学研究』、第 88 巻、2011 年)、「感染源としての同性愛者――オスカー・ワイルドと大英帝国の社会浄化運動」(『英文学研究 支部統合号（関東英文学研究）』、第 3 巻、2011 年）など。

【日本文学専攻】

教　授　　大　橋　崇　行

2011 年　総合研究大学院大学文化科学研究科　日本文学研究専攻博士後期課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本近代文学、現代文化

【主な著書・論文】

『言語と思想の言説　近代文学成立期における山田美妙とその周辺』（笠間書院）、『小説の生存戦略ライトノベル・メディア・ジェンダー』（青弓社、共編著）、『ライトノベル・フロントライン』（全 3 冊、青弓社、共編著）、「「愛国」に覆われる世界道徳教育としての「少年講談」」（『昭和文学研究』第 79 集）

教　授　　岡　部　嘉　幸

1996 年 東京大学大学院人文社会系研究科 日本文化研究専攻博士課程退学（文学修士）

【専 攻 領 域】 日本語学（文法論・文法史）

【主な著書・論文】

「現代語から見た江戸語・江戸語から見た現代語――ヨウダの対照を中心に――」（『近世語研究のパースペクティブ――言語文化をどう捉えるか』笠間書院）、「「非情の受身のバリエーション――近代以前の和文資料における――」（『バリエーションの中の日本語史』くろしお出版）、「洒落本の江戸語と人情本の江戸語――指定表現の否定形態を例として」（『国語と国文学』96 巻 5 号）

教　授　　木　谷　眞理子

2001 年　東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本古代文学

【主な著書・論文】

「「初音」巻の方法」（『国語と国文学』75 巻 4 号）、「源氏物語と食」（『成蹊国文』40 号）、「野分巻の垣間見」（『むらさき』46 輯）、「源氏絵概説」（『国文学』53 巻 1 号）、「伴大納言絵巻の詞と絵」（『成蹊国文』49 号）

教　授　　久保田　　篤

1985 年　東京大学大学院人文科学研究科　国語国文学専門課程修士課程修了（文学修士）

【専　攻　領　域】　日本語学（文字・表記、江戸時代語）

【主な著書・論文】

「近世初期板本の仮名づかい」「黄表紙の片仮名」（以上『国語と国文学』）、「近世の通俗文体としての黄表紙の文章」「貞享期西鶴本の仮名遣い」（以上『近代語研究』武蔵野書院）、「『浮世風呂』の平仮名の用字法」「『一歩』下巻の仮名遣い説について」（以上『成蹊国文』）、「明治初期の送り仮名」（『成蹊大学文学部紀要』）、「江戸時代後期の平仮名・片仮名について」（国立国語研究所編『日本語の文字・表記』）

教　授　　浜　田　雄　介

1987 年　東京大学大学院人文科学研究科　国語国文学専攻博士課程満期退学（文学修士）

【専　攻　領　域】　日本近代文学

【主な著書・論文】

『渡辺温』（博文館新社、共編）、『子不語の夢――江戸川乱歩小酒井不木往復書簡集』（皓星社、編）、『定本久生十蘭全集』（国書刊行会、共編）、『江戸川乱歩作品集』（岩波文庫、編）、「大衆文学の近代」（『岩波講座日本文学史第 13 巻』）、「童心と探偵小説――水谷準・渡辺温・横溝正史」（『ユリイカ』）、「捕物帳と環境」（『環境という視座』勉誠出版）、「超常能力と大正中期探偵小説」（『怪異を魅せる』青弓社）

教　授　　平　野　多　恵

2002 年　東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本中世文学

【主な著書・論文】

『大学生のための文学レッスン　古典編』（三省堂、共著）、『明恵　和歌と仏教の相克』（笠間書院）、『秋篠月清集／明恵上人歌集』（明治書院、共著）、『明恵上人夢記訳注』（勉誠出版、共編著）、『おみくじの歌』（笠間書院）、『国語をめぐる冒険』（岩波書店、共著）、「釈教歌の方法と文体」（『日本文学』2014 年 7 月号）、「歌占本の系譜：託宣から占いへ」（『説話文学研究』52）

教　授　　森　　雄　一

1993 年　東京大学大学院人文科学研究科　博士課程中退　修士（文学）

【専　攻　領　域】　日本語学、認知言語学

【主な著書・論文】

『学びのエクササイズ　レトリック』（ひつじ書房）、『認知言語学基礎から最前線へ』（くろしお出版、共編著）、『ことばのダイナミズム』（くろしお出版、共編著）、「提喩研究の新展開――非対称性を中心に――」（『表現研究』第 76 号）、「明示的提喩・換喩形式をめぐって」（『認知言語学論考』No.2 ひつじ書房）、「『主体化』をめぐって」（『東京大学国語研究室創設百周年記念国語学論集』汲古書院）、「隠喩・提喩・逆隠喩」（『メタファー研究の最前線』ひつじ書房）

教　授　　吉　田　幹　生

2004 年　東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本古代文学

【主な著書・論文】

『日本古代恋愛文学史』（笠間書院）、「枕詞と万葉歌の展開」（『国語と国文学』）、「万葉旋頭歌の成立と展開」（『成蹊大学文学部紀要』）、「物語文学成立前史」（『国語と国文学』）、「作中和歌の意味と機能」（『文学』）、「高麗の相人の言葉について」（『国語国文』）

准教授　　牧　　藍　子

2011 年　東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本近世文学

【主な著書・論文】

『元禄江戸俳壇の研究――蕉風と元禄諸派の俳諧』（ぺりかん社）、「「彦根風の「こなし」」（『国語と国文学』99 巻 8 号）、「宝永期の許六連句の一手法――「すべり」の分析――」（『連歌俳諧研究』144 号）

【社会文化論専攻】

教　授　　有　富　純　也

東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本古代史

【主な著書・論文】

『日本古代国家と支配理念』（東京大学出版会．2009 年）、『古代国家と天皇』（同成社．共著、2010 年）、『正倉院文書論集』（青史出版．共著、2005 年）、『人文学の沃野』（風間書房、共著、2017 年）、『嗜好品の謎、嗜好品の魅力』（風間書房、共著、2018 年）

教　授　　伊　藤　昌　亮

東京大学大学院学際情報学府　博士課程修了　博士（学際情報学）

【専　攻　領　域】　メディア論、社会運動論

【主な著書・論文】

『ネット右派の歴史社会学――アンダーグラウンド平成史 1990-2000 年代』（青弓社、2019 年）、『デモのメディア論――社会運動社会のゆくえ』（筑摩書房、2012 年）、『フラッシュモブズ――儀礼と運動の交わるところ』（NTT 出版、2011 年）、『ポスト・モバイル社会――セカンドオフラインの時代へ』（世界思想社、共著、2016 年）、『奇妙なナショナリズムの時代――排外主義に抗して』（岩波書店、共著、2015 年）、『角川インターネット講座４　ネットが生んだ文化――誰もが表現者の時代』（KADOKAWA、共著、2014 年）、『メディアリテラシー・ワークショップ――情報社会を学ぶ・遊ぶ・表現する』（東京大学出版会、共著、2009 年）、『コミュナルなケータイ――モバイル・メディア社会を編みかえる』（岩波書店、共著、2007 年）

教　授　　今　田　絵里香

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程人間・社会学専攻研究指導認定退学　博士（人間・環境学）

【専　攻　領　域】　メディア史、教育社会学、ジェンダー論

【主な著書・論文】

『「少年」「少女」の誕生』（ミネルヴァ書房、2019 年）、『「少女」の社会史』（勁草書房、2007 年）、『セクシュアリティの戦後史』（京都大学学術出版会、編著、2014 年）、『京都大学　男女共同参画への挑戦』（明石書店、編著、2008 年）、『歴史の蹊、史料の杜――史資料体験が開く日本史・世界史の扉』（風間書房、共著、2023 年）、『男女共学の成立――受容の多様性とジェンダー』（六花出版、共著、2021 年）、『趣味とジェンダー――〈手づくり〉と〈自作〉の近代』（青弓社、共著、2019 年）、『変貌する恋愛と結婚――データで読む平成』（新曜社、共著、2019 年）、『教育社会学のフロンティア１――学問としての展開と課題』（岩波書店、共著、2017 年）、『文化現象としての恋愛とイデオロギー』（風間書房、共著、2016 年）、『映画は社会学する』（法律文化社、共著、2016 年）、『ダイナミズムとしてのジェンダー――歴史から現在を見るこころみ』（風間書房、共著、2016 年）、『男女別学の時代――戦前期中等教育のジェンダー比較』（柏書房、共著、2015 年）、『ライフスタイルとライフコース――データで読む現代社会』（新曜社、共著、2015 年）、『データで読む日本文化――高校生からの文学・社会学・メディア研究入門』（風間書房、共著、2015 年）、『ジェンダーで考える教育の現在　フェミニズム教育学をめざして』（解放出版社、共著、2008 年）

教　授　　川　村　陶　子

東京大学大学院総合文化研究科　国際社会科学専攻博士課程退学　博士（学術）

【専　攻　領　域】　国際関係論（国際文化関係）、ドイツ地域研究

【主な著書・論文】

『国家安全保障の脱構築』（法律文化社、分担執筆：遠藤誠治編、2023 年）「国際文化関係運営の政策を構想する」（『国際政治』第 206 号、2022 年）、『想起の文化とグローバル市民社会』（勉誠出版、分担執筆：石田勇治・福永美和子編、2016 年）、『「多文化共生」を問い直す』（日本経済評論社、分担執筆：権五定、齋藤文彦編、2015 年）、「国際文化交流における『自由』と『パートナーシップ』」（『文化政策研究』第 7 号、2014 年）、『国際文化関係史研究』（東京大学出版会、共編著、2013 年）、「冷戦期ドイツの対外文化政策」（『国際政治』第 168 号、2012 年）、「『移民国』ドイツを揺るがしたザラツィン論争」（『インターカルチュラル』第 10 号、2012 年）

教　授　　見　城　武　秀

東京大学大学院社会学研究科　社会情報学専攻博士課程中退　修士（社会学）

【専　攻　領　域】　コミュニケーション論、メディア論

【主な著書・論文】

『人文学の沃野』（風間書房．共著、2017 年）、メディアリテラシー・ワークショップ――情報社会を学ぶ・遊ぶ・表現する』（東京大学出版会．共著、2009 年）、『メディア・コミュニケーション学』（大修館書店．共著、2008 年）、『公助・共助・自助のちから――武蔵野からの発信』（風間書房．共著、2006 年）、『モバイルコミュニケーション――携帯電話の会話分析』（大修館書店．共著、2006 年）、『シリーズ社会情報学への接近 3 情報秩序の構築』（早稲田大学出版部．共著、2004 年）

教　授　　小　林　　盾

1996 年　東京大学大学院人文社会系研究科　単位取得退学　修士（社会学）

【専　攻　領　域】　社会学、社会的不平等、社会調査法

【主な著書・論文】

『リーディングス合理的選択論』（勁草書房、編著、2022 年）、『数理社会学事典』（丸善出版、編著、2022 年）、『嗜好品の社会学』（東京大学出版会、編著、2020 年）、『美容資本』（勁草書房、2020 年）、『東南アジアにおける地方ガバナンスの計量分析』（晃洋書房、編著、2019 年）、『変貌する恋愛と結婚』（新曜社、編著、2019 年）、『嗜好品の謎、嗜好品の魅力』（風間書房、編著、2018 年）、ContemporaryJapaneseSociology（Sage、編著、2017 年）、『ライフスタイルの社会学』（東京大学出版会、2017 年）、『アクティブ・ラーニング入門』（ハーベスト社、2016 年）、『ライフスタイルとライフコース』（新曜社、編著、2015 年）、『データで読む日本文化』（風間書房、編著、2015 年）、『社会学入門』（朝倉書店、編著、2014 年）、『ソーシャル・メディアでつながる大学教育』（ハーベスト社、共著、2013 年）、『社会調査の応用』（弘文堂、編著、2012 年）

教　授　　佐々木　　紳

2011 年　東京大学大学院人文社会系研究科　アジア文化研究専攻　博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】中東地域史、トルコ近現代史、オスマン帝国近代史

【主な著書・論文】

「近代オスマン帝国における女性作家の誕生――ファトマ･アリイェとハイブリッドな評伝の虚実」(磯貝真澄･帯谷知可編『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭――歴史から現在をみる』国際書院、2023 年)、『歴史の蹊、史料の杜――史資料体験が開く日本史・世界史の扉』(責任編集、風間書房、2023 年)、『ミドハト・パシャ自伝――近代オスマン帝国改革実録』(訳書、東京大学出版会、2023 年)、「近代オスマン帝国の改革実践者」(村田雄二郎ほか『アジアのかたちの完成』集英社、2022 年)、カーター・V・フィンドリー『テュルクの歴史――古代から近現代まで』(共訳、明石書店、2017 年)、『オスマン憲政への道』(東京大学出版会、2014 年)

教　授　　澁　谷　智　子

東京大学大学院総合文化研究科　超域文化科学専攻　博士課程修了　博士（学術）

【専　攻　領　域】　社会学

【主な著書・論文】

『ヤングケアラー――介護を担う子ども・若者の現実』(中公新書、2018 年)、『コーダの世界――手話の文化と声の文化』(医学書院、2009 年)、『女って大変。――働くことと生きることのワークライフバランス考』(医学書院、編著、2011 年)、「ヤングケアラーを支える法律――イギリスにおける展開と日本での応用可能性」(『成蹊大学文学部紀要』第 52 号、2017 年)、「「想定外」の介護者――男性介護者とヤングケアラーから考える介護とジェンダーと年齢」(『ダイナミズムとしてのジェンダー』風間書房、共著、2016 年)、「声の規範――「ろうの声」に対する聴者の反応から」(『社会学評論』第 56 巻 2 号、2005 年)

特任教授　　竹　内　敬　子

1987 年　東京大学大学院経済学研究科　第 2 種博士課程単位取得満期退学

2007 年　英国マンチェスター大学大学院人文・文化・歴史学研究科　Ph.D（歴史学）

【専　攻　領　域】　イギリス社会経済史、イギリス女性史、女性労働論

【主な著書・論文】

『社会経済史学の課題と展望――社会経済史学会創立 80 周年記念』(有斐閣、共著)、『イギリス文化史』(昭和堂、共著)、『イギリス近現代女性史入門』(青木書店、共著)、『国際文化研究の現在』(柏書房、共著)、『西洋史の新地平』(刀水書房、共著)、「1874 年工場法とジェンダー――『時間短縮運動』を中心に」(『社会政策学会年報』第 42 集)、「イギリス 1802 年工場法とジェンダー」(『成蹊大学文学部紀要』50 号)、『ダイナミズムとしてのジェンダー』(風間書房、共著)、『嗜好品の謎、嗜好品の魅力――高校生からの歴史学・日本語学・社会学入門』(風間書房、共著)

教　授　　中　野　由美子

一橋大学大学院社会学研究科　地域社会研究専攻　博士後期課程修了

2005 年　博士（社会学）　（一橋大学）

【専　攻　領　域】　西洋史（アメリカ社会史、先住民史）

【主な著書・論文】

『近代アメリカの公共圏と市民――デモクラシーの政治文化史』（東京大学出版会：遠藤泰生編、分担執筆）、『南北アメリカの歴史』（放送大学教育振興会：網野徹哉・橋川健竜編、分担執筆）、『〈インディアン〉と〈市民〉のはざまで――合衆国南西部先住社会の再編過程――』（名古屋大学出版会：単著）、『グローバリゼーションと帝国』（ミネルヴァ書房：紀平英作・油井大三郎編、分担執筆）、『原典アメリカ史社会史史料集』（岩波書店：アメリカ学会訳編、分担執筆）、『講座世界の先住民族北米』（明石書店：綾部恒雄監修、分担執筆）、『浸透するアメリカ、拒まれるアメリカ――世界史の中のアメリカニゼーション』（東京大学出版会：油井大三郎・遠藤泰生編、分担執筆）

教　授　　西　　兼　志

フランス国立グルノーブル第３大学情報コミュニケーション学科博士課程修了　博士（情報コミュニーケション学）フランス国立グルノーブル第２大学哲学科博士課程修了　博士（哲学）

【専　攻　領　域】　メディア論

【主な著書・論文】

『アイドル／メディア論講義』（東京大学出版会、2017 年）、『〈顔〉のメディア論：メディアの相貌』（法政大学出版局、2016 年）、『人文学の沃野』（風間書房、共著、2017 年）、『文化現象としての恋愛とイデオロギー』（風間書房、共著、2017 年）、『ハイブリッド・リーディング：新しい読書と文字学』（新曜社、共著、2016 年）

教　授　　墓　田　　桂

フランス国立ナンシー第二大学　博士課程修了　博士（Docteur en Droit Public）

【専　攻　領　域】国際政治学、安全保障研究

【主な著書・論文】

Indo-PacificStrategies: Navigating Geopolitics at the Dawn of a New Age (co-editedwithBrendonJ.Cannon)(Routledge, 2021)、「序論――安全保障の課題としての越境・難民問題」『国際安全保障』（第 46 巻第 4 号、2019 年 3 月）、「「難民問題」の複合性」『国際問題』（No.662、2017 年 6 月）、『難民問題――イスラム圏の動揺、EU の苦悩、日本の課題』（中央公論新社、2016 年）、「流動する 2010 年代の世界情勢――難民問題の政治的背景」『人道研究ジャーナル』（Vol.5、2016 年）、『国内避難民の国際的保護――越境する人道行動の可能性と限界』（勁草書房、2015 年）、『難民・強制移動研究のフロンティア』（現代人文社、2014 年、共著）、「『国内強制移動に関する指導原則』と国内避難民の国際的保護」『難民研究ジャーナル』（第 1 号、2011 年）、「災害を超えて――国際災害対応法（IDRL）の現状と日本に期待される役割」『法律時報』（2011 年 7 月号、エリザベス・フェリスとの共著）

教　授　　細　谷　広　美

1995 年　総合研究大学院大学 文化科学研究科修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　文化人類学、ラテンアメリカ地域研究

【主な著書・論文】

“José María Arguedas y el manejo del lenguaje en el mundo religioso de los Andes”（PacarinadelSur.No.46/47:158-171, 2021 年）、『ラテンアメリカ文化事典』（丸善出版、共編著、2020 年）、『グローバル化する〈正義〉の人類学：国際社会における法形成とローカリティ』（昭和堂、共編著、2019 年）、『人類文化の現在：人類学研究』（放送大学教育振興会、共著、2016 年）、『越境するモノ（フェティシズム研究 2）』（京都大学出版会、共著、2014 年）、「人権のグローバル化と先住民：ペルーにおける紛争、真実委員会、平和構築」（文化人類学 77（4）: 566-587, 2013 年）、*Universos de memoria.: Aproximación a los retablos de Edilberto Jiménez sobre la violencia política*（Instituto de Estudios　Peruanos、共著、2012 年）、『ペルーを知るための 66 章』（明石書店、編著、2012 年）、『他者の帝国：インカはいかにして「帝国」となったか』（世界思想社、共著、2008 年）、『植民地主義と人類学』（関西学院大学出版、共著、2007 年）、『講座人間と環境 10 大地と神々の共生自然環境と宗教』（昭和堂、共著、1999 年）、『アンデスの宗教的世界：ペルーにおける山の神信仰の現在性』（明石書店、1997 年）

教　授　　渡　邉　大　輔

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程　単位取得退学　博士（政策・メディア）

【専　攻　領　域】　社会学（ライフコース論、老いの社会学）、社会老年学

【主な著書・論文】

“Understanding Diversity in Later Life and a New Culture of Aging: Sociology of Aging in Japan”（*International Sociology Reviews,*2021 年）、『総中流の始まり――団地と生活時間の戦後史』（青弓社、編著、2019 年）、『変貌する恋愛と結婚――データで読む平成』（新曜社、共著、2019 年）、『人文学の沃野』（風間書房、共著、2017 年）、『計量社会学入門』（世界思想社、編著、2015 年）、『ライフスタイルとライフコース』（新曜社、共著、2015 年）、『データで読む日本文化』（風間書房、共著、2015 年）、『ソーシャルキャピタルと格差社会』（東京大学出版会、共著、2013 年）、*Human Insecurity in East Asia* (United Nations University Press, co-author, 2009).

准教授　　稲　葉　佳奈子

筑波大学大学院人間総合科学研究科単位取得退学　博士（学術）

【専　攻　領　域】　スポーツ社会学

【主な著書・論文】

『ダイナミズムとしてのジェンダー――歴史から現在を見るこころみ』（風間書房、共著、2016 年）、『学習者に寄り添う教育を目指す』（風間書房、共著、2020 年）、『日本代表論』（せりか書房、共著、2020 年）

准教授　　金　　善　美

一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程 修了 博士（社会学）

【専 攻 領 域】 都市社会学、地域社会学

【主な著書・論文】

『隅田川・向島のエスノグラフィー――「下町らしさ」のパラドックスを生きる』（晃洋書房、単著、2018 年）、「振り返りながら、進んでいく――東京下町の現在」『変容する都市のゆくえ――複眼の都市論』（文遊社、2020 年）、「문화적 자원을 활용한 마을만들기 운동의 가능성과 한계: 탈공업화 이후 도쿄의 도시공간 재편과 변모하는 구도심의 지역사회」『아시아, 젠트리피케이션을 말하다』（푸른숲、2016 年）、「『町家ブーム』から見た大都市インナーエリアの地域社会変動――京都・西陣地区の事例から」『日本都市社会学会年報』No. 36、p. 164-179（2018 年）

准教授　　寺　本　敬　子

2012 年　フランス・パリ第一大学（パンテオン・ソルボンヌ）歴史学科博士後期課程修了　博士（歴史学）

2012 年　一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻博士後期課程修了　博士（社会学）

【専　攻　領　域】フランス近代史、日仏交流史

【主な著作・論文】

「フランスと 1928 年国際博覧会条約」（佐野真由子編『万博学――万国博覧会という、世界を把握する方法――』思文閣出版、2020 年）、「アルフレッド＝モーリス・ピカール――1889 年パリ万国博と「革命」――」（高橋暁生編『「フランス革命」を生きる』刀水書房、2019 年）、“Maeda Masana et la présence japonaise à l'Exposition universelle de 1878”（*Historiens et Géographes*, no. 444, Paris, La Société des professeurs d'histoire et de géographie de l'enseignement public,2018）、『パリ万国博覧会とジャポニスムの誕生』（思文閣出版、2017 年）、『徳川昭武に宛てたレオポルド・ヴィレットの書簡――1867 年パリ万国博の出会いから日露戦争まで――』（一橋大学社会科学古典資料センター、2009 年）

准教授　　樋　口　真　魚

東京大学大学院人文社会系研究科　日本文化研究専攻博士課程修了　博士（文学）

【専　攻　領　域】　日本近現代史、日本外交史、東アジア国際関係史

【主な著書・論文】

『歴史の蹊、史料の杜――史資料体験が開く日本史・世界史の扉』（風間書房、共著、2023 年）、『昭和史研究の最前線――大衆・軍部・マスコミ、戦争への道』（朝日新聞出版、共著、2022 年）、『国際連盟と日本外交――集団安全保障の「再発見」』（東京大学出版会、2021 年）

准教授　　内　藤　　準

東京大学大学院人文社会系研究科　単位取得退学　修士（社会学）

【専　攻　領　域】　社会学（社会階層と排除，秩序問題，理論社会学）

【主な著書・論文】

「就職の統計的ジェンダー差別における予言の自己成就――基本的なメカニズムとダイバーシティ施策の効果」（『理論と方法』第 30 巻 1 号、2015 年）、「社会階層研究における機会の平等と完全移動――概念の分析に基づく方法論的検討」（『社会学評論』第 65 巻 3 号、2014 年）、『社会学入門――社会をモデルでよむ』（朝倉書店、編著、2014 年）、“Perceived Freedom and Its Sociological Effects: An Inquiry into the Relationship Between Liberalism and Inequality”(International Journal of Japanese Sociology, 2007)、「自由と責任の制度――パレート派リベラルの不可能性と契約自由解の可能性」（『理論と方法』第 20 巻 2 号、2005 年）

准教授　　嶺　崎　寛　子

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科　比較社会文化学専攻　博士後期課程修了　博士（学術）

【専　攻　領　域】　ジェンダー学、文化人類学

【主な著書・論文】

田中雅一・嶺崎寛子編著『ジェンダー暴力の文化人類学――家族・国家・ディアスポラ社会』（昭和堂、2021 年）「イスラームとジェンダーをめぐるアポリアの先へ」（『宗教研究』第 93 巻 2 号、2019 年）、ライラ・アブー・ルゴド『ムスリム女性に救援は必要か』（共訳、書肆心水、2018 年）、「ローカルをグローバルに生きる――アフマディーヤ・ムスリムの結婚と国際移動」（『社会人類学年報 vol 44 2018』、弘文堂、2018 年）、「名誉に基づく暴力を回避する―― 2000 年代エジプトを事例として」（『文化人類学』第 82 巻 3 号、2017 年）、『イスラーム復興とジェンダー――現代エジプト社会を生きる女性たち』（昭和堂、2015 年）、“Gender Strategy and Authority in Islamic Discourses: Female Preachers in Contemporary Egypt” (Masooda Bano and Hilary Kalmbach eds. Women, Leadership and Mosques: Changes in Contemporary Islamic Authority. Brill)

外国籍を有する受験生の方へ

● 出願時に下記のいずれかに該当する場合は、第２期入学試験に出願できません。
※第１期のみ、出願できます。

・在留資格が「短期滞在」である
・入学時（2024年４月１日）以降の在留資格を有していない

第１期入学試験合格者の入学手続期間は、合格発表日から2023年11月30日（木）（消印有効）までです。この期間中に、入学金を含む納付金の納入と、入学手続書類の提出を完了してください。
なお、入学手続に関する書類等は、合格証と一緒に郵送します。

● 受験票、合格証、入学手続書類等は、本学アドミッションセンターから海外に郵送することはできません。海外に在住している方は、日本国内の代理人による書類の提出及び受け取りでも問題ありません。

不明な点がありましたら、成蹊大学アドミッションセンターに問い合わせてください。

外国の大学(大学院)を卒業・修了(見込)の場合の「学位取得(見込)証明書・成績証明書」について

■学位取得（見込）証明書について

	提出物
英文又は和文の学位取得（見込）証明書 (中国の大学を含む)	・出身大学の学位取得（見込）証明書
英文又は和文以外の学位取得（見込） 証明書（中国の大学)	次の①又は②を提出すること ①・左記の学位取得（見込）証明書 ・公証処が証明した英語の訳文の原本 ②・中国高等教育学生信息網（CHSI）による認証 ※１
英文又は和文以外の学位取得（見込） 証明書（中国以外の大学)	・出身大学の左記の学位取得（見込）証明書 （英文又は和文以外の言語) ・大使館で証明済みの英語訳又は日本語訳

※１　中国高等教育学生信息網（CHSI）が発行する英文の「Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate」のコピーを出願書類に同封するとともに、出願締切日までに、CHSI から直接、電子認証報告メールが成蹊大学アドミッションセンター（gs-nyushi@ms.seikei.ac.jp）に送信されるように申請してください。

■成績証明書について

	提出物
英文又は和文の成績証明書 （中国の大学を含む)	・出身大学の成績証明書
英文又は和文以外の成績証明書 （中国の大学)	次の①又は②を提出すること ①・左記の成績証明書 ・公証処が証明した英語の訳文の原本 ②・中国高等教育学生信息網（CHSI）が発行する英文又は和文の成績証明書※２
英文又は和文以外の成績証明書 （中国以外の大学)	・出身大学の左記の成績証明書 （英文又は和文以外の言語) ・大使館で証明済みの英語訳又は日本語訳

※２　中国高等教育学生信息網（CHSI）の日本代理機構「中国学歴・学籍認証センター 日本代理機構」で英語による証明を請求し、成蹊大学アドミッションセンターに直送する申請手続きを行ってください。「中国学歴・学籍認証センター 日本代理機構」のホームページ http://www.chsi.jp/　又は、中国高等教育学生信息網（CHSI）が発行する英文の「Verification Report of China Higher Education Student’s Academic Transcript」のコピーを出願書類に同封するとともに、出願締切日までに、CHSI から直接、電子認証報告メールが成蹊大学アドミッションセンター（gs-nyushi@ms.seikei.ac.jp）に送信されるように申請してください。

○ 納 付 金（2023 年度）

◎　博士前期課程

理工学研究科

項　　目	前　　期 （入学手続時）	後　　期 （10 月）	年　　額
入　学　金	200,000 円		200,000 円
授　業　料	375,000 円	375,000 円	750,000 円
施　設　費	130,000 円	130,000 円	260,000 円
設　備　費	50,000 円	50,000 円	100,000 円
合　　計	755,000 円	555,000 円	1,310,000 円

経済経営研究科、法学政治学研究科、文学研究科

項　　目	前　　期 （入学手続時）	後　　期 （10 月）	年　　額
入　学　金	200,000 円		200,000 円
授　業　料	260,000 円	260,000 円	520,000 円
施　設　費	50,000 円	50,000 円	100,000 円
設　備　費	10,000 円	10,000 円	20,000 円
合　　計	520,000 円	320,000 円	840,000 円

◎　博士後期課程

理工学研究科

項　　目	前　　期 （入学手続時）	後　　期 （10 月）	年　　額
入　学　金	200,000 円		200,000 円
授　業　料	305,000 円	305,000 円	610,000 円
施　設　費	130,000 円	130,000 円	260,000 円
設　備　費	50,000 円	50,000 円	100,000 円
合　　計	685,000 円	485,000 円	1,170,000 円

経済経営研究科、法学政治学研究科、文学研究科

項　　目	前　　期 （入学手続時）	後　　期 （10 月）	年　　額
入　学　金	200,000 円		200,000 円
授　業　料	220,000 円	220,000 円	440,000 円
施　設　費	50,000 円	50,000 円	100,000 円
設　備　費	10,000 円	10,000 円	20,000 円
合　　計	480,000 円	280,000 円	760,000 円

３月末日（必着）までに辞退の理由を付した「入学辞退届」を提出した場合には、入学金を除く既納の納付金を返還いたします。

（ただし、返還に係る振込手数料は返還額から差し引かせていただきます。）

◎一般社団法人成蹊会（同窓会）関連納入金について（博士前期課程・博士後期課程）

成蹊大学大学院生は卒業と同時に一般社団法人成蹊会（成蹊学園創立以来の卒業生で組織された同窓会）の会員となります。皆様には入学年度後期の学費納入時に、入会金 36,600 円の納入をお願いしております（成蹊高等学校及び成蹊大学卒業生、成蹊大学大学院修了生で既に入会金、会費を納入いただいている方は対象となりません)。

○ 奨学金制度

本学大学院学生に対して、次のような奨学金制度があります。

2023 年 4 月現在

制度名	種別	奨学金額	応募資格
成蹊大学大学院奨学金（Ａ種）	給付	授業料、施設費及び設備費の合計額の２分の１	博士後期課程の２年次又は３年次に在学していて、学業･人物ともに優秀な者全員に給付される（※１）
成蹊大学大学院奨学金（Ｂ種）	給付	授業料、施設費及び設備費の合計額の４分の１	博士前期課程の２年次に在学していて、学業･人物ともに優秀な者全員に給付される（※１）
旭硝子奨学金	給付	博士前期　月額 100,000 円 博士後期　月額 120,000 円	博士前期課程１年次生（※２） 博士後期課程１年次生（※２）
エフテック奨学財団奨学金	給付	月額　30,000 円	博士前期課程１年次生（※２） 博士後期課程１年次生（※２）
日本学生支援機構大学院第一種奨学金〈無利子〉	貸与	博士前期 月額 50,000 円・ 88,000 円 博士後期 月額 80,000 円･122,000 円	大学院生（※２、 ※３）
日本学生支援機構大学院第二種奨学金〈有利子〉	貸与	月額　50,000 円・ 80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円 の中から選択	大学院生（※２）
成蹊会育英奨学金	貸与	月額　50,000 円（無利子貸与）	大学院博士前期課程１年次生（※２） 貸与奨学金対象の地方出身者には生活支援制度（月額３万円給付）あり
	給付	月額　40,000 円（給付）	

※１　対象者は最短修業年限までの者で、成蹊大学私費外国人留学生授業料等減免に関する規則による授業料等納付金の減免を受けた者は除く。
※２　応募制の奨学金
※３　「特に優れた業績による奨学金返還免除制度の内定制度」については、学生支援事務室にお問合せください。

○ 教育補助員制度

成蹊大学では、本学大学院生が教員の指導・助言の下に、学部及び博士前期課程における実験・実習・演習等授業科目の教育補助業務に従事することができる制度を設けています。この制度は、本学における教育効果をより一層高めるとともに、大学院生が教育実践の場を経験するための貴重な機会を提供することを目的としています。

2022 年度は 57 名が採用されました。

○ 学会発表等に対する助成

成蹊大学では、本学大学院に在学する学生の研究成果の学会発表及び学会参加を奨励し、これにより学術研究の促進を図ることを目的として、次の助成を行っています。

なお、助成金の交付は、学生１人につき毎年度１回とし、国内で開催される学会の場合、東京都、千葉県、神奈川県及び埼玉県である場合は助成の対象となりません。

【学会発表助成】

個人研究又は共同研究の成果を国内外で開催される学会で登壇して発表し、又は報告する本大学院に在学する学生を対象とし、次の助成金が交付されます。

交通費：往復交通費の実費（25,000 円を限度）

宿泊費：１泊 7,000 円（２泊を限度）

なお、国外で開催される学会の場合は、国際航空運賃・宿泊等の総額 70,000 円を限度に助成されます。

【学会参加助成】

国内外で開催される学会に参加する理工学研究科を除く本大学院に在学する学生を対象とし、学会発表助成の基準に基づいて総額 20,000 円を限度に助成されます。

○ 私費外国人留学生授業料等減免制度

成蹊大学では、私費外国人留学生に対し、授業料、施設費、設備費の合計額を最大 50%減免する制度を設けています。修業年限内であれば、毎年度、授業料等の減免の申請が行えます。

○ 問い合わせ先メールアドレス

大学院入試に関することや提出物等に関する質問は、下記メールアドレスに連絡してください。

gs-nyushi@ms.seikei.ac.jp

成蹊大学大学院　文学研究科　志願票

2024年度

受験番号	

該当する番号を○で囲む		
1.　博士前期課程		
1.　英米文学専攻 2.　日本文学専攻 ［選択受験方式］希望に○ 1.　筆記試験 2.　プレゼンテーション試験 3.　社会文化論専攻	1. 研究コース 2. 総合コース 3. 英語教育コース （英米文学専攻のみ）	長期履修 1. 希望する （留学生は選択不可） 2. 希望しない
2.　博士後期課程		
1.　英米文学専攻 ［外国語］希望に○　1. ドイツ語　2. フランス語　3. 中国語　4. スペイン語　5. 日本語 2.　日本文学専攻 3.　社会文化論専攻		

写 真 貼 付

・上半身脱帽
・最近3ヶ月以内に撮影のもの
・縦4cm、横3cm枠なし
・全面糊付のこと
・写真の裏面に氏名を記入

※3 学籍番号	

フリガナ		性　別	
※1 氏　名（漢字）		男　・　女	
※2 英字			
生年月日	西暦　　年　　月　　日	国籍	
メールアドレス			
本人連絡先 現住所	〒 TEL　　－　　－		
研究題目（具体的に）			

履　　歴

学歴	年　月	高等学校 中等教育学校			卒業
	年　月	大学	学部	学科	入学
	年　月				
	年　月	大学	学部	学科	卒業 卒業見込
	年　月	大学院	研究科	専攻　博士前期（修士）課程	修了 修了見込
	年　月				
	年　月				
職歴	年　月 ～	年　月			
	年　月 ～	年　月			
	年　月 ～	年　月			

※1　外国籍の場合、漢字氏名があれば記入してください。
※2　外国籍の場合のみ記入してください。パスポートの記載通りに、姓（Surname）、名（Given name）、ミドルネーム（Middle Name）の順で記入してください。
※3　成蹊大学の学生（含む：既卒生）は、学籍番号を記入してください。

〔注意〕
・太枠内は全て記入してください。
・提出後の試験方式・受験科目の変更は認めません。
・写真は入学が許可された場合、学生証等の写真になります。

（宛名シート）　　１８０－８６３３

切手
貼付

東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

成蹊大学アドミッションセンター行
（大学院入学志願書在中）

簡易書留

志望課程・専攻	博士　　期課程　　研究科　　専攻
現住所 電話	〒 TEL
氏名	

ー　速　達　ー

□□□－□□□□

住所シート
（太枠内を必ず記入してください）

住所

氏名（フリガナ）
（　　）様

志望課程・専攻		博士　　期課程　　研究科　　専攻
電話		－　　－

大学使用欄	
大学院関係書類　在中 □受　験　票 □合　格　証 □入学手続書類	受験番号

2024年度

入学検定料の納入について

1．この振込用紙の①～③の各票※欄にボールペンで記入のうえ、必ず銀行窓口にて電信扱で振込んでください。
なお、国内の三菱UFJ銀行の本支店から振込む場合は、手数料は不要です。

2．受付銀行からは、領収印の押印された「①入学検定料振込通知書」と「②入学検定料振込金領収書」を必ず受領してください。

3．出願手続の際は、領収印を確認のうえ「①入学検定料振込通知書」を提出してください。振込通知書が提出されていない場合は志願書の受付はできません。また、日付印のないものも無効です。

4．出願を受理した後は、納付した検定料の返還はできません。

大学提出用

2024年度

①入学検定料振込通知書

金　額	¥35000
フリガナ	※
志願者名	※
振込先銀行	三菱UFJ銀行　吉祥寺支店
受　取　人	学校法人 成蹊学園 納付金口

受験番号	

成蹊大学大学院入学検定料として
上記の金額を振込みました。

受付銀行領収印

成蹊大学大学院

振込人切離し

（振込人保存用）

2024年度

②入学検定料振込金領収書

手数料	

依頼日	※　年　月　日
金　額	¥35000
フリガナ	※
志願者名	※
振込先銀行	三菱UFJ銀行　吉祥寺支店
受　取　人	学校法人 成蹊学園 納付金口

成蹊大学大学院入学検定料として
上記の金額を領収しました。

印紙

受付銀行領収印

成蹊大学大学院

銀行切離し

電信扱

③振込依頼書

依頼人コードは必ず依頼人名頭部に打電してください

☆自動振込機は、使わないでください。

依頼日	※　年　月　日	振込指定	電信扱	手数料			
振込先	三菱UFJ銀行　吉祥寺支店			金　額	¥3500		
受取人 預金種目	フツウ	口座番号	1430648	内訳 現金			
受取人 口座名	セ　イ　ケ　イ			当手　枚			
	学校法人　成蹊学園　納付金口			他手　枚			

依頼人（志願者） 依頼人コード	F1016623	氏名 ※（カタカナ）
		※（漢　字）
住所	※（〒　－　）	領収印
	※ 電話　－　－	

受付銀行へのお願い

1. 国内の三菱UFJ銀行の本支店から振込む場合は手数料は不要です。
2. ①、②、③票に領収印を押印のうえ、①、②票を振込依頼人にお渡しください。
3. 表示金額を訂正したものは受付けないでください。

成蹊大学大学院